

赤平市消防創立 90 周年記念

平成 23 年度版

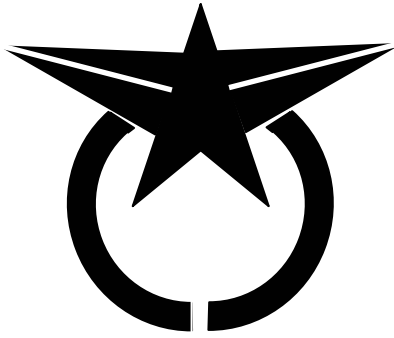
消防年報



赤平市消防本部

平成 24 年刊行

■ 市 章



頭文字「赤」を図案化し、その左右に開く両端で将来飛躍発展の市勢を表し、外円は市民の和（輪）向上団結を示し、明日に躍動する赤平市を描いたもの。

（昭和41年12月 2日制定）

■ 「虹の映えるまち・赤平」

シンボルマーク



青は赤平市のイニシャル「A」と雄大な山を表し、下方の3本線は中央に流れる空知川で赤平の自然景観を表現しました。

左の円形「虹」は未来への希望の架け橋、心と心の希望の架け橋を表し、将来に向けて赤平市の活躍、発展を描いたものです。

（平成 2年 4月 1日制定）

■ 市民憲章

わたくしたちは、空知川にはぐくまれ石炭によって発展した赤平の市民です。この郷土に誇りと責任をもち、より豊かなより美しいまちをきずくため、この憲章を定めます。

1. いたわりと笑顔をまちにひろめましょう。
1. よく学びつくり出す芽をそだてましょう。
1. きれいな花と緑でまちをつつみましょう。
1. たくましいはたらく力をのばしましょう。
1. みんなで語りみんなのまちをつくりましょう。

（昭和49年 7月31日制定）

は し が き

- 1 この年報は、平成２３年当市の消防現況及び消防行政執行状況並びに火災、救急統計を収録したもので、今後の消防行政推進の参考に資するとともに、当市の消防事情を紹介するため編集したものであります。

また、本年は当市の消防創立９０周年にあたることから記念号として編集しました。

- 2 この年報は、特記したものを除き、平成２４年４月１日現在で編集したものであります。

平成２４年 ７月

赤 平 市 消 防 本 部

消防創立 90 周年を迎えて



赤平市長 高 尾 弘 明

本市消防の礎となる赤平村消防組が、大正 11 年 9 月に組織されてから 90 年という大きな節目の年を迎えることができました。

これもひとえに幾多の先人先達が郷土愛護の精神と強い団結をもって、本市消防行政の充実発展と安全な地域社会の確立に尽力された賜であり、衷心より感謝と敬意を表するところであります。

公設消防となつてからの 90 年間、幾多の大火や水害などの災害に見舞われながらも地域住民の安全確保を最優先とした消防活動と、その時代に即した消防力の充実強化を図りながら今日の消防体制が確立されたところであります。

しかしながら、近年、全国各地で地震、豪雨、竜巻などの自然災害が頻発し、その様相はますます複雑多岐・大規模化し住民の生命・身体・財産を守り被害の軽減を図ることを任務とする消防職団員の果たす役割は、より一層重要となっていることから更なる消防体制の強化が望まれるところであります。

昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、多くの人々に大きな衝撃と悲しみを与えたところであり、比較的災害の少ない本市に住む私達にとりましても、防災体制あるいは危機管理体制の重要性などを再認識し、震災から得た様々な教訓を踏まえ、昨年より防災訓練の充実及び防災備蓄の整備に努めるとともに、今年度は文京分団詰所の新築、さらには今後、消防防災拠点となる消防庁舎の建設に向けて準備を進め、消防体制の強化等に鋭意努めるところであります。

消防職団員の皆様には、今後とも赤平消防創立 100 年に向けて消防の組織力を十分に発揮いただき、市民の安全確保のために日々訓練等にご精進いただくとともに特段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりますが、赤平消防創立 90 年を契機といたしまして赤平消防の一層の発展と関係各位のご活躍をご祈念申し上げましてご挨拶といたします。

消防創立 90 周年を迎えるにあたり



赤平市消防長 中 村 高 庸

大正 11 年 9 月 1 日に赤平村消防組が組織されて以来、本年で赤平消防創立 90 周年を迎えるにあたり、これまで赤平市の消防行政の発展にご尽力を賜りました関係各位に改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

近年時代の変化とともに、消防救急無線のデジタル化並びに消防の広域化など、消防を取り巻く環境も急変しつつあります。また、昭和 36 年に建設されました消防本部庁舎は新築移転のため消防防災施設を併設した庁舎として建設作業を進めているところであります。

昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、甚大な被害が発生し多くの尊い命が失われました。さらに、各地で発生している竜巻やゲリラ豪雨など、我々の想像の範囲を超える大規模自然災害、多種多様な災害に的確に対応し、市民の安全・安心に誠心誠意努力して参りますこととお誓い申し上げますとともに、関係各位をはじめ市民の皆様の一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

消防創立 90 周年によせて



赤平市消防団長 吉 成 茂 明

消防創立 90 周年の節目にあたり、先人の弛まぬ努力に対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

近年の急速な社会情勢の変化に対応するため「自分たちのまちは、自分たちで守る」を合言葉に伝統ある消防団活動を継承しながら、火災をはじめ大規模災害等に対する訓練を行うとともに、地域の人々に火災予防の啓発や広報活動等の訓練を日々重ねているところであります。

これからも、消防団員としての規律と技を磨き、消防力の強化に努め、地域住民が安心して暮らせるよう、消防職団員一丸となり地域防災の確保に全力を傾注してゆく所存でございますので、関係各位におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

目

次

市勢・沿革

市勢・・・・・・・・・・・・・・・・	1
消防機配置図・・・・・・・・・・	1
沿革・・・・・・・・・・・・・・・・	2
歴代消防長・・・・・・・・・・	14
歴代消防組頭・警防団長・消防団長	15
叙位・叙勲受章者名簿・・・・・	16
消防庁長官表彰受章者名簿・・・・・	17

消防機構・職団員・予算

消防本部（署）組織図・・・・・・・・	18
消防職員階級別配置・・・・・・・・	18
年齢区分別階級別消防職員数・・・・・	19
消防職員階級別継続年数・・・・・	19
消防職員教育状況・・・・・・・・・・	19
消防職員の特殊技能資格・・・・・・・・	20
救急隊員資格内訳・・・・・・・・・・	20
消防団組織図・・・・・・・・・・	21
消防団員階級別配置・・・・・・・・	21
年齢区分別階級別消防団員数・・・・・	21
消防団員階級別継続年数・・・・・	22
過去5年間の分団別出勤率・・・・・	22
消防団員職業別消防団員数・・・・・	22
一般会計と消防費の比較・・・・・・・・	23
消防費の人口・世帯別状況・・・・・	23
消防現有力の人口・世帯・面積別状況	23
人口・世帯数の推移・・・・・・・・・・	24
消防職員の推移・・・・・・・・・・	24
財政（決算額）の推移・・・・・・・・	24

消防施設

消防庁舎の概要・・・・・・・・・・	25
通信施設の状況・・・・・・・・・・	28
消防水利の状況・・・・・・・・・・	28
消防車両現勢・・・・・・・・・・	29
現有消防車・・・・・・・・・・	30
主な消防用資機材等保有状況・・・・・	32

予防・危険物

防火管理者の選任及び消防計画届出状況	34
月別各種届出状況・・・・・・・・・・	35
用途及び工事別建築司意思務処理状況	36
危険物施設の現況・・・・・・・・・・	36
危険物施設の許可数量・・・・・・・・	37
防火・広報活動月別実施状況・・・・・	38
防火協力団体・・・・・・・・・・	39

火災統計

火災の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	41
平成23年火災記録・・・・・・・・・・	42
月別及び曜日別火災件数・・・・・・・・	43
時間別及び季節別火災件数・・・・・	44
過去10年間出火原因別火災件数・・・・・	45
過去10年間の火災状況・・・・・・・・	46
過去の主な火災・・・・・・・・・・	47

消防活動

出動状況・・・・・・・・・・・・・・・・	48
月別出動状況・・・・・・・・・・	48
過去5年間の出動状況・・・・・・・・	48
事故種別発生場所別救助出動状況・・・・・	49
事故種別月別救助出動件数・・・・・	49
赤平市家庭用緊急通報システム及び シルバーハウジング緊急通報概要図	50
家庭用緊急通報システム受信状況・・・・・	51
家庭用緊急通報システム出動状況・・・・・	51
シルバーハウジング緊急通報受信状況	51
シルバーハウジング緊急通報出動状況	51

救急統計

事故種別月別救急出場件数・・・・・	52
管外搬送出場件数・・・・・・・・・・	52
時間別救急出場件数・・・・・・・・・・	52
年齢区分別搬送人員数・・・・・・・・	53
傷病程度別搬送人員数・・・・・・・・	53
過去10年間の救急出場件数・・・・・	53

気象統計

平成23年各別気象参考記録・・・・・	54
過去10年間の気象参考記録・・・・・	55

市 勢

地 勢

赤平市は、北海道のほぼ中央にあって、市域の南及び北の大部分は山岳地帯である。

市の中央部を東西に空知川、国道３８号線、ＪＲ北海道根室本線が走り、これを軸として帯状に長く市街地及び密集地を形成している。

面積と広ぼう

面 積	広 ば う	
	東 西	南 北
	14.090 km	18.501 km

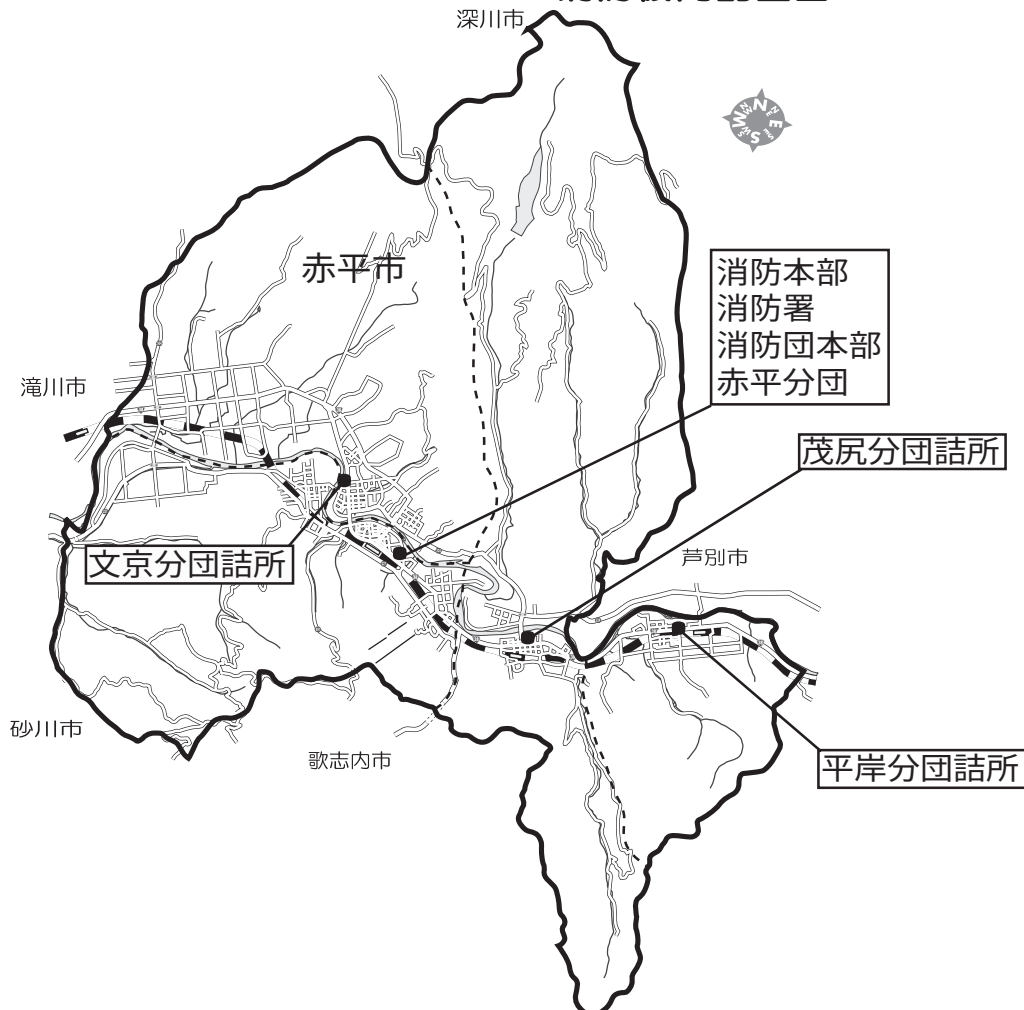
129.88 km²

人口及び世帯

人 口			世 帯 数
計	男	女	
12,508 人	5,740 人	6,768 人	6,674 世帯

(人口、世帯数は、平成 23 年 3 月 31 日現在)

消防機関配置図



赤平市の位置



沿 革

明治35年	4月	上赤平（現赤平地区）に火の見櫓建立、組員30名をもって上赤平消防組が創立される。
大正	5年10月	上平岸（現平岸地区）に上平岸私設消防組が創立され、組頭に今井時次郎氏就任
	6年	上平岸私設消防組に梅野炭鋺より、半天、股引、頭巾の寄贈を受ける。 上赤平に上赤平火災予防組合が創立され、火の見櫓に半鐘を取付ける。 下平岸（現茂尻市街地区）に下平岸私設消防組合が創立される。
	7年	上平岸私設消防組に梅野炭鋺より、ドイツ型1号腕用ポンプ1台の寄贈を受ける。
10年	2月	上赤平火災予防組合、ドイツ型2号腕用ポンプ1台を購入し、配備
	6月	上赤平に私設上赤平消防組が創立される。
	10月	茂尻炭鋺に茂尻火防組合が創立され、ドイツ型2号腕用ポンプ1台を購入し、配備
11年	4月	歌志内村より分村、赤平村として独立
	6月	公認赤平村消防組が認許
	9月	消防組を上赤平（現赤平地区）を1部、下平岸（現茂尻地区）を2部、上平岸（現平岸地区）を3部の3部制とし、初代組頭に細野謙氏が就任。組織は組頭1名、部長3名、小頭6名、消防手96名の合計106名。装備はドイツ型1号腕用ポンプ各1台を配備
12年	6月	第1回赤平村消防組合連合消防演習挙行
	11月	消防組1部で警鐘を購入し、火の見櫓に取付ける。
14年	5月	5月14日から6月3日まで下平岸（現茂尻地区）で山火事が発生し、消防組連日出動し消火に当る。
	12月	赤平村公有林火災で消火に尽力した功績により、北海道庁拓殖部長より消防組が表彰状を受ける。
昭和	2年	消防組2部、火の見櫓を建立し、警鐘を取付ける。 茂尻市街部落全員で千曲川より幅3尺の防火用水路を5条から元町まで設置
昭和	3年	5月 北海道庁警察部長より各部に金馬簾1条の使用認許を受ける。6月24日に金馬簾伝達式挙行
	4年	5月 幌岡自警団創立される。
	6年	消防組2部（茂尻）で手引ガソリンポンプを購入し、配備
	9年	消防組2部（茂尻）に駒沢久太郎氏より手引ガソリンポンプ1台と2吋ホース20本の寄贈を受ける。
	6月	消防組1部、火の見櫓を建替える。
10年	9月	茂尻炭鋺に私設義勇消防隊が組織される。
11年		豊里昭和肥料KKで自衛消防班を組織、その後防護団に組織変えを行う。
	8月	消防組3部、平岸169番地に機械器具置場と団員集会所を新築
	9月	天皇行幸のため消防組が警備に当る。
12年	5月	赤平村消防組後援会創立される。
13年	8月	赤間炭鋺に私設消防隊が創立され、2区世話所横に火の見櫓、機械器具置場を新築し、手引腕用ポンプを購入し、配備
14年	4月	警防団の発令により赤平村消防組を赤平村警防団と組織替え7分団制とする。住友炭鋺を第1分団、赤平市街を第2分団、東海豊里炭鋺を第3分団、茂尻市街を第4分団、雄別茂尻炭鋺を第5分団、平岸市街を第6分団、北炭赤間炭鋺を第7分団とする。 初代警防団長 河崎八郎氏 就任 団員319名
15年	9月	第2分団で泉町に木造2階建望楼付機械器具置場を新築
16年	1月	住友炭鋺に私設消防組（第1分団と併存）が創立され、腕用ポンプ1台、消火栓90基配備し、木造火の見櫓建立
	4月	1937年式消防車を1台購入し、第2分団に配備
	5月	5月26日、豊里炭鋺住宅より火災。49戸が焼失
18年	2月	町制施行により、赤平町警防団と改名する。
19年	10月	10月3日、豊里炭鋺住宅火災。14棟120戸が焼失。罹災者550人、焼失面積3,511

		m ² 、損害額120千円
21年	3月	第2分団に常備員（機関員）1名を配置
21年	7月	豊里炭鉱に私設消防組（第3分団と併存）が創立され、手引ガソリンポンプ1台、消火栓35基、貯水池2を配備
	7月	赤平町警防団後援会創立される。
	8月	雄別茂尻炭鉱に私設保安消防隊創立される。
	10月	第2分団に常備員1名増員、常備員2名体制となる。
22年	2月	第4分団で茂尻元町に機械器具置場を新築。木造火の見櫓建立
	10月	1947年式消防車を購入し、第4分団に配備。常備員1名を配置
23年	3月	消防組織法の施行により警防団が廃止。自治体消防として赤平町消防団を設置、1団、7分団とする。
		初代消防団長 望月松雄氏 就任 団員344名
	6月	第1分団で団員詰所と鉄骨製火の見櫓を建設。消防車を購入し、配備
	6月	1948年式消防車1台を第2分団に増強。第6分団に第4分団よりガソリンポンプ1台を移管する。
24年	2月	1940年式トラックを購入しガソリンポンプを積載、第6分団に配備
	4月	4月25日、雄別茂尻炭鉱選炭機火災。焼失面積2,093m ² 、損害額200,000千円
25年	1月	第3分団、機械器具置場を新築。1950年式消防車（水槽付）を購入し、配備
	9月	第2分団3名、第4分団3名、第6分団1名、合計7名の常備員を配置
	9月	9月14日、百戸渡舟場において転覆事故発生。第4分団が出動し遭難者11名、馬4頭を救出する。
	11月	11月19日、赤平町役場庁舎議事堂より出火、1棟全焼、1棟半焼。焼失面積約200坪、損害額5,000千円
	12月	12月9日、赤平市街（現本町）でマーケットから出火し、18棟31世帯を焼失。罹災者105名
26年	4月	共和自警団創立される。
	10月	1947年式トラックを購入し、消防車に改造して第7分団に配備
27年	9月	第6分団、団員詰所に団員召集用モーターサイレンを設置
	10月	開町30周年記念行事として、赤平町消防団創立30周年記念式典並びに記念連合演習挙行
	12月	1945年式消防車を購入し、第1分団に配備
28年	2月	2月10日、平岸木工場から出火し、工場兼住宅1棟446m ² を焼失。損害額1,840千円
	7月	1954年式消防車を購入し、第2分団に配備。昭和16年購入の消防車を老朽のため廃車とする。
	7月	分団一斉指令電話を設置
29年	4月	第2分団3名、第4分団2名、第6分団1名、合計6名の常備員を配置
	4月	4月16日、赤平市街（現本町）で飲食店から出火し、17棟54世帯を焼失。焼失面積2,011m ² 、損害額25,101千円
	7月	市制施行により、赤平市消防団となる。市制施行記念連合消防演習挙行
30年	1月	緊急電話「火事」「消防」となる。
	7月	水道給水開始、赤平地区に消火栓40基設置
	7月	北海道消防協会滝川地方支部連合消防演習挙行
31年		茂尻地区に消火栓20基設置
	1月	1月19日、平岸木工場から出火し、工場及び住宅3棟を焼失。焼失面積881m ² 、損害額6,300千円
	8月	1956年式消防車を購入し、第6分団に配備。1940年式消防車を老朽のため廃車とする。
	9月	9月27日、赤平市街（現本町）でデパートから出火し、6棟26世帯が焼失。焼失面積1,327m ² 、損害額37,284千円
32年	3月	赤平市消防団条例改正により団員定数300名となる。

	7月	1957年式消防車1台を第4分団に、1957年式消防車1台を第5分団に購入し、配備
33年	4月	第2分団8名、第4分団2名、第6分団2名、合計12名の常備員を配置
	8月	1958年式消防車（水槽、放水塔付）を購入し、第2分団に配備
34年	10月	第2分団10名、第4分団2名、第6分団3名、合計15名の常備員を配置
35年	9月	1960年式消防車を購入し、第3分団に配備。昭和25年購入の1950年式消防車（水槽付）を老朽のため廃車とする。
36年	2月	消防専用無線電話購入、基地局を第2分団に設置、移動局2局を第2分団と第6分団の消防車に積載配備
	4月	赤平市消防団条例改正により団員定数250名となる。
	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数32名となる。
	5月	赤平市消防本部設置。初代消防長 望月松雄氏（前消防団長） 就任 事務職員1名、市役所より出向。15名の常備員と合わせ17名の職員配置
	5月	第2代消防団長 佐々木金太郎氏 就任
	6月	字赤平452番地（現大町1丁目5番地）に消防本部庁舎新築落成
	6月	消防職員13名増員し、30名体制となる。
	6月	消防本部庁舎落成式挙行
	7月	消防本部発足記念全市連合消防演習挙行
	7月	7月25日、26日、集中豪雨による被害発生。被害戸数506戸、損害額197,868千円。災害救助法適用となる。
	12月	赤平市消防署設置。茂尻、平岸を分遣所とする。消防署長は消防長兼務、消防本部兼務職員22名、茂尻分遣所4名、平岸分遣所3名を配置
37年	6月	住吉自警団創立される。
	8月	8月3日、4日、台風9号による被害発生。被害戸数881戸、損害額914,198千円。災害救助法適用となる。
38年	3月	第7分団解団、消防車を市に移管し第2分団に配備。管轄区域を第2分団の管轄とする。
	7月	救助艇を購入し、消防署に配備
	8月	第5分団解団、消防車を市に移管し第4分団に配備。管轄区域を第4分団の管轄とする。
	8月	第5分団解団により、茂尻炭鉱自衛消防団が創立される。
	8月	8月25日、集中豪雨による被害発生。被害戸数709戸、損害額84,800千円
	9月	赤平市消防団条例改正により団員定数200名となる。
39年	1月	第3代消防団長 中川精作氏 就任
	2月	1964年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、消防署に配備
	6月	豊里少年消防クラブ創立される。
	8月	赤平開基75周年及び市制施行10周年記念赤平市連合演習挙行。消防職員3名増員、37名体制となる。
	10月	茂尻少年消防クラブ創立される。
40年	3月	第2分団、昭和38年第7分団より移管の1947年型消防車を老朽のため廃車とする。
	4月	第2代消防長 松本秀男氏 就任
	6月	赤平市消防団を1団7分団制から1団5分団制とし、第1分団を住友分団、第2分団を赤平分団、第3分団を豊里分団、第4分団を茂尻分団、第6分団を平岸分団とする。
	6月	平岸少年消防クラブ創立される。
	7月	北海道消防協会滝川地方支部9ヶ市町消防連合演習挙行
	8月	赤平少年消防クラブ創立される。
	10月	日本損害保険協会より1965年式消防車の寄贈を受け、損保号と命名し、消防署に配備
	11月	赤平市危険物安全協会創立される。
41年	1月	赤平市火災出動区分を制定。出動区分を第1種、第2種とする。
	4月	1963年式ライトバンを購入し、指令車として消防本部に配備
	5月	消防本部発足5周年記念全市連合消防演習挙行
	7月	桎屋根解消融資制度を実施。申し込み30件、30棟が改修される。
	8月	北海道防災演習が滝川市において開催され、消防署、赤平分団が参加

	9月	赤平市防火管理者協会創立される。
	9月	赤平市消防団条例改正により団員定数160名となる。
	9月	豊里炭鉱より1960年式消防車が市に移管される。
42年	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数45名となる。
	6月	豊里炭鉱閉山により豊里分団（炭鉱分団）解団
	7月	豊里分団（市街分団）発足。職員1名増員、44名体制となる。昭和41年豊里炭鉱より移管の1960年式消防車を豊里分団に配備
43年	2月	赤平市消防団が日本消防協会より竿頭綬を受賞する。
	3月	自治体消防制度20周年記念式典において、消防本部、消防団が消防庁長官より竿頭綬を受賞する。
	6月	字豊里（現西文京町4丁目1番地）に豊里分遣所庁舎新築落成。消防署豊里分遣所を発足し、職員1名を配置
	6月	消防署の一部機構改革により茂尻分遣所を茂尻出張所とする。茂尻元町（現中央町北1丁目3番地）に茂尻出張所庁舎新築落成
	6月	茂尻出張所落成記念全市連合演習挙行
	9月	救急業務実施義務市の政令指定により、救急隊編成に伴う消防機構の一部改正を行う。
	9月	天皇、皇后両陛下御臨席のもと開催された開道100年記念第20回全道消防大会（旭川市）に参加
	12月	1968年式救急車（国消A級）を購入し、消防署に配備。12月10日より救急業務の運用を開始する。
44年	6月	消防本部庁舎増築工事落成（車庫63㎡、仮眠室、分団室63㎡、計126㎡を増築）
	12月	1969年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、消防署に配備。昭和39年購入の1964年式消防ポンプ自動車（水槽付）を茂尻出張所に配備替
	12月	昭和38年第5分団から茂尻分団に移管の1957年式消防車を消防署に配備替
	12月	可搬動力ポンプを購入し、赤平分団に配備
45年	2月	消防専用無線を超短波無線機に切替、基地局1基、移動局8基を設置
	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数46名となる。職員数46名
	7月	住友赤平砒消防団（住友分団併設）が解団し、住友分団（公設分団一本化）となる。
	7月	市議会総務委員会が、消防行政事務調査のため施設の視察を実施
	8月	住友炭鉱より消防車2台が市に移管され、住友分団に配置。消防署住友分遣所を発足し、職員1名を配置
	8月	平岸少年消防クラブが、赤平市青少年問題協議会より青少年善行表彰を受ける。
	10月	昭和45年5月20日から昭和45年10月18日まで150日間無火災連続記録樹立
	10月	1970年式消防車を購入し、住友分団に配備。昭和45年7月に住友炭鉱より移管の消防車を老朽のため廃車とする。
	11月	1970年式無線指令車を購入し、消防本部に配備。昭和41年購入の1963年式指令車を老朽のため廃車とする。
	11月	北海道定例表彰式において、赤平市消防団が北海道知事より竿頭綬を受賞する。
46年	2月	北文京町緑ヶ丘団地 渡辺富子、得能茂光の両氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	2月	赤平市消防団が優良消防団として日本消防協会より表彰旗を受賞する。
	4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数48名となる。職員数46名
	11月	消防署の一部機構改革として、茂尻出張所を強化し、茂尻、平岸、百戸地区を管轄する拠点とする。
	11月	平岸分遣所庁舎老朽により字平岸125番地（現新光町2丁目4番地）に庁舎を新築し移転する。
47年	5月	赤平ライオンズクラブより1972年式広報車の寄贈を受け、消防本部に配備
	7月	元消防司令長 望月松雄氏 正七位 勲五等瑞宝章を受章する。
	8月	赤平分団、昭和28年購入の1954年式消防車を老朽のため廃車とする。
	8月	赤平、茂尻、豊里、平岸少年消防クラブが赤平市消防長より感謝状の表彰を受ける。
	11月	赤平市消防団条例改正により団員定数130名となる。

12月	1972年式普通ポンプ自動車を購入し、赤平分団に配備
48年 4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数51名となる。職員数46名
4月	赤平石油燃焼機器整備業協会創立される。
8月	昭和45年に住友炭鉱から移管の消防車を老朽のため廃車とする。
49年 2月	1974年式消防ポンプ自動車を購入し、赤平分団に配備。昭和47年購入の1972年式消防ポンプ自動車を平岸分団に配備替
2月	平岸分団、昭和31年購入の1956年式消防車を老朽のため廃車とする。
4月	元副団長 小林弘氏 勲六等単光旭日章を受章する。
7月	消防署、昭和44年茂尻分団より移管の1957年式消防車を老朽のため廃車とする。
12月	1974年式消防ポンプ自動車を購入し、茂尻分団に配備
50年 4月	赤平市職員定数条例改正により消防職員定数52名となる。職員数52名
4月	元班長 小倉吉蔵氏 勲七等瑞宝章を受章する。
6月	第2代消防長 松本秀男氏 助役就任。消防長事務取扱となる。
7月	北海道消防協会中空知支部連合消防演習挙行
8月	日本損害保険協会より1975年式普通消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備
8月	昭和40年日本損害保険協会より寄贈の1965年式消防車を予備車として茂尻出張所に配置替
8月	8月23日、24日、台風6号による被害発生。被害戸数226戸、損害額220,406千円
9月	昭和43年購入の1968年式救急車を福祉事務所に配置替
9月	茂尻分団、昭和32年購入の1957年式消防車を老朽のため廃車とする。
9月	9月6日から8日まで豪雨による水害発生。被害戸数75戸、損害額32,310千円
11月	北海道共済農業協同組合連合会より1975年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備
11月	1975年式化学車を購入し、消防署に配備
12月	昭和44年購入の1969年式消防ポンプ自動車（水槽付）を消防署から赤平分団に配備替
12月	赤平分団、昭和33年購入の1958年式消防車（水槽、放水塔付）を老朽のため廃車とする。
51年 4月	元分団長 午角伝吉氏 勲七等瑞宝章を受章する。
6月	泉町、西文京町に水防用排水ポンプを各1基設置
6月	平岸、茂尻少年消防クラブが北海道消防協会より優良少年消防クラブの表彰を受ける。
9月	平岸141番地 江村幸治氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
11月	1976年式指令車を購入し、消防本部に配備。昭和45年購入の1970年式指令車を老朽のため廃車とする。
52年 1月	字茂尻133番地 株式会社北斗石油に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
6月	赤平、文京少年消防クラブが北海道消防協会より優良少年消防クラブの表彰を受ける。
8月	字茂尻129番地 株式会社大賀クロージングに一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
10月	消防本部庁舎増築工事落成（待機室、浴室、トイレ、ボイラー室、分団室、事務室、仮眠室）
11月	第3代消防長 逢坂春政氏 就任
11月	機構改革により課制を導入、消防本部2課4係、消防署1署、1出張所、3分遣所となる。
11月	1977年式普通ポンプ自動車を購入し、豊里分団に配備。昭和41年豊里炭鉱より移管の1960年式消防車を老朽のため廃車とする。
12月	消防救急指令装置、救急医療情報収集装置を導入し、本部通信指令室に設置
53年 3月	山之内製薬より1978年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備
4月	急病テレホンセンターを開設し、医療情報照会業務を開始する。
4月	元分団長 安原信治氏 勲七等青色桐葉章を受章する。

	12月	総合気象観測装置を導入し、消防本部に設置
54年	1月	赤平市消防団条例改正により副部長制を廃止。部長2名体制とする。
	1月	若木町西1丁目 光生食品工業株式会社に一般市民消防協力者として消防長感謝状を贈呈する。
	8月	救助艇（トレーラー付）を購入。エルム号と命名し、消防署に配備。昭和38年購入の救助艇を老朽のため廃艇とする。
	9月	消防署一部機構改革により、1署2係、1出張所、3分遣所となる。
	9月	消防関係規程の整備を実施
	11月	1979年式消防ポンプ自動車（水槽付）を購入し、茂尻出張所に配備。昭和44年消防署より移管の1964年式消防車（水槽付）を老朽のため廃車とする。
	11月	昭和54年6月29日から昭和54年11月21日まで146日間無火災連続記録樹立
55年	1月	第4代消防団長 菊島節男氏 就任
	1月	平岸少年消防クラブが赤平市青少年問題協議会より青少年善行表彰を受ける。
	8月	昭和57年4月1日の消防法施行令一部改正に伴い、全職員対象に救急隊員資格付与講習会を12月18日まで実施
	12月	消防無線整備（基地局1基、移動局20基、無線受令機4基）
56年	4月	赤平石油燃焼器具整備業協会を赤平燃焼機器整備業協会と名称変更する。
	6月	全国消防長会北海道支部予防事務研究会を開催
	7月	消防職員の階級に消防副士長を新設
	8月	滝川市緑町4丁目 矢元勇治氏に一般市民消防協力者（人命救助）として消防長感謝状を贈呈する。
	8月	字豊里165番地 菅原智恵子、幸子、深雪の三氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	8月	8月3日から8月6日まで台風12号による被害発生。被害戸数338戸、損害額3,281,569千円
	9月	西文京町3丁目 猪爪政光、政徳、西文京町1丁目 斉藤幸二の三氏に一般市民消防協力者（水防協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	10月	全消防団員に新制服を貸与
57年	4月	豊里分団、豊里分遣所を文京分団、文京分遣所に名称変更する。
	6月	昭和56年11月18日から昭和57年6月25日まで220日間無火災連続記録樹立
	7月	第4代消防長 岩渕兼夫氏 就任
	8月	特殊消防対策車を購入し、消防署に配備
	8月	消防機械器具倉庫を文京分遣所裏に新築
	8月	北海道消防操法訓練大会に赤平分団がポンプ車操法の部に参加
	9月	赤平市消防創立60周年記念式典並びに記念連合演習举行
	10月	昭和40年日本消防協会より寄贈の1965年式消防車を老朽のため廃車とする。
58年	1月	赤平市消防団団旗を新規に制作し、入魂式を実施
	2月	赤平燃焼機器整備業協会10周年記念式典举行
	9月	消防用特殊作業車を購入し、消防署茂尻出張所に配備
	10月	第5代消防長 仁田力夫氏 就任
59年	5月	機構改革により課制を廃止し、係に主幹（消防司令）を配置
	7月	全国消防長会北海道支部道央地区協議会警防事務研究会を開催
	9月	日本消防協会より1984年式広報車の寄贈を受け、消防本部に配備。昭和47年ライオンズクラブより寄贈の1972年式広報車を老朽のため廃車とする。
	12月	4週5休制、試行開始
	12月	1984年式小型動力ポンプ付大型水槽車を購入し、消防署に配備
	12月	昭和44年購入の1969年式消防車（水槽付）を老朽のためロータリークラブを通してフィリピンへ寄贈する。
60年	4月	消防団の定員区分改正により副団長2人制とする。
	7月	北海道消防協会中空知支部連合消防演習举行
	11月	赤平市危険物安全協会創立20周年記念式典举行

	11月	東文京町に水防用排水機場を落成
61年	4月	元団長 中川精作氏 勲五等瑞宝章を受章する。
	5月	消防吏員の階級改正により消防長の階級が消防監となる。
	8月	機構改革により主任（消防士長）を配置
	9月	赤平市防火管理者協会創立20周年記念式典挙行
	4月	機構改革により主任を廃止、主査（消防司令補）を配置
	5月	日本損害保険協会より1987年式普通ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配備
	6月	滝川市において開催された石狩川水防演習に消防本部、消防団が参加
	10月	平岸桂町6番地 斎藤彦勝氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
62年	11月	消防科学総合センター「救急基金」より1987年式救急車の寄贈を受け、消防署に配備。昭和50年北海道共済農業協同組合連合会より寄贈の1975年式救急車を老朽のため廃車とする。
	11月	赤平、茂尻、文京、平岸少年消防クラブが赤平市長より善行表彰を受賞する。
63年	3月	文京少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
	5月	1988年式無線指揮車を購入し、消防本部に配備。昭和51年購入の1976年式指令車を老朽のため廃車とする。
	6月	自治体制度40周年記念赤平市消防演習挙行
	7月	赤平市危険物安全協会会長 三浦 武氏 消防庁長官表彰「消防関係安全功労者表彰」を受賞する。
	8月	8月26日、集中豪雨による被害発生。被害戸数88戸、損害額303,157千円
	9月	東日本柔道実業団対抗大会が開催され、消防職員が会場警備に当る。
	10月	赤平消防鷹の会が創立される。
	11月	赤平市消防団が北海道消防協会より竿頭綬を受賞する。
	11月	平岸分団、昭和49年茂尻分団より移管の1972年式消防車を老朽のため廃車とする。
平成 元年	3月	1989年式消防ポンプ自動車を購入し、平岸分団に配備
	3月	茂尻少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
	3月	住友分団解団、解団式を挙行。団員の一部は赤平分団へ移籍。昭和45年購入の1970年式消防車を老朽のため廃車とする。
	4月	第6代消防長 東幸男氏 就任
	4月	住友分団解団により消防署一部機構改革。1署2係、1出張所、2分遣所となる。
	9月	第44回国民体育大会柔道競技会が開催され、消防職員が会場警備に当る。
	10月	4週6休制、試行開始
	10月	赤平市消防団条例改正により団員定数110名となる。
	10月	1989年式消防ポンプ自動車を購入し、茂尻分団に配備。昭和49年購入の1974年式消防車を老朽のため廃車とする。
	11月	元消防司令長 岩渕兼夫氏 勲五等瑞宝章を受章する。
2年	1月	若木町西1丁目 光生食品工業株式会社に一般市民消防協力者として消防長感謝状を贈呈する。
	3月	平岸少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
	3月	元団長 菊島節男氏 勲六等瑞宝章を受章する。
	4月	機構改革により消防本部5係、消防署3係、出張所2係、2分遣所となる。
	4月	第5代消防団長 田中太郎氏 就任
	4月	全国消防長会北海道支部道央地区協議会総会を開催
	6月	6月13日、落雷、降ひょう、豪雨による被害発生。被害戸数308戸、損害額275,914千円
	8月	赤平開基百年記念消防演習挙行
	11月	1990年式化学消防ポンプ自動車を購入し、消防署に配備。昭和50年購入の1975年式化学車を老朽のため廃車とする。
3年	1月	赤平、茂尻、文京、平岸少年消防クラブが赤平市青少年問題協議会より善行表彰を受賞する。

2月	平成2年8月7日から平成3年2月8日まで186日間無火災連続記録樹立
3月	元消防団長夫人 菊島美代子氏より赤平、茂尻、文京、平岸分団に分団旗の寄贈を受ける。
3月	消防本部、消防団が消防庁長官より表彰旗を受賞する。
4月	第七代消防長 川合隆安氏 就任
5月	東大町4丁目 知里昭彦氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
6月	消防本部発足30周年・消防庁長官表彰旗受賞記念赤平市消防演習挙行
9月	元消防監 仁田力夫氏 従六位 勲五等瑞宝章を受章する。
10月	消防署、昭和50年日本損害保険協会より寄贈の1975年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
11月	昭和49年購入の1974年式消防ポンプ自動車を赤平分団から消防署に配備替
11月	元副分団長 橋邊富五郎氏 勲六等瑞宝章を受章する。
12月	赤平市防火管理者協会創立25周年記念誌発行
4年 1月	4週6休に伴う土曜閉庁を実施
3月	女性消防団員8名を任命。消防団本部に配置
3月	赤平少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰盾を受賞する。
4月	第8代消防長 小野武志氏 就任
4月	消防署茂尻出張所管理係を消防1係、指導係を消防2係に名称変更
9月	赤平市消防創立70周年記念式典並びに記念演習挙行、記念誌発行
11月	北海道共済農業協同組合連合会より1992年式救急車2B型の寄贈を受け、消防署に配備
11月	昭和53年山之内製菓より寄贈の1978年式救急車を老朽のため廃車とする。
11月	消防署、赤平分団より移管の1974年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
12月	1992年式消防ポンプ自動車CD-II型4WDを購入し、赤平分団に配備
5年 3月	赤平市燃焼機器整備業協会創立20周年記念式典挙行並びに記念誌発行
6月	自治体消防発足45周年記念赤平市消防演習挙行
7月	赤平市防火管理者協会会長 竹俣紀一氏 消防庁長官表彰「消防関係安全功労者表彰」を受賞する。
8月	平成5年2月23日から平成5年8月15日まで174日間無火災連続記録樹立
8月	全国消防長会北海道支部警防事務研究会を開催
6年 1月	4週8休に伴う完全週休2日制を実施
2月	共和自警団解団
4月	第9代消防長 林久貢氏 就任
4月	消防署救急係を消防署救急救助係に名称変更
4月	第6代消防団長 中村信男氏 就任
5月	1994年式東洋ゴム工業(株)製手漕ぎ式ゴムボートを購入し、消防署に配備
6月	住吉自警団解団
6月	市制施行40周年記念赤平市消防演習挙行
9月	幌岡自警団解団
7年 1月	消防緊急通信指令装置Ⅰ型を購入し、消防本部通信指令室に配置。1月25日より運用開始する。
6月	赤平中央婦人会防火クラブ創立される。
6月	第41回北海道消防協会空知地方支部中空知支部連合演習挙行
7月	第10代消防長 高橋正治氏 就任
9月	赤平幼稚園幼年消防クラブ創立される。
9月	いずみ幼稚園幼年消防クラブ創立される。
9月	幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブによる赤平市幼少年婦人防火委員会が創立される。
10月	文京分団、昭和52年購入の1977年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
11月	元団長 田中太郎氏 勲五等瑞宝章を受章する。

11月	赤平市危険物安全協会創立30周年記念式典挙行並びに記念誌発行
8年 3月	1996年式消防ポンプ自動車CDーⅡ型低床式4WDを購入し、文京分団に配備
3月	平成7年2月7日から平成8年3月4日まで392日間無火災連続記録樹立
6月	消防本部発足35周年記念赤平市消防演習挙行
9月	赤平市防火管理者協会創立30周年記念式典挙行並びに記念誌発行
9月	日本損害協会より1996年式水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型4WDの寄贈を受け、消防署茂尻出張所に配備。昭和54年購入の1979年式水槽付消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
10月	消防組織法の改正により消防職員委員会が創立される。
11月	消防無線（基地局3基、固定局1基、移動局20基）を購入し、消防署に配備。昭和55年整備された消防無線を老朽のため廃棄とする。
	救急波（複信方式）を増波
9年 5月	無線受令機15基購入し、職員に配備
5月	本部通信指令室に、北海道総合行政情報ネットワーク専用電話を設置
11月	元消防司令 島畑信明氏 正七位 勲六等瑞宝章を受章する。
10年 3月	1998年式救助工作車Ⅱ型4WDを購入し、消防署に配備。消防本部庁舎裏に救助工作車格納庫を建設
4月	機構改革により課制を導入。消防本部2課4係、消防署2課1出張所4係2分遣所となる。
4月	第11代消防長 久保田春夫氏 就任
4月	第7代消防団長 孫崎稔氏 就任
5月	無線受令機10基購入し、職員に配備
6月	自治体消防制度50周年記念赤平市消防演習挙行
9月	昭和59年財団法人日本消防協会より寄贈の1984年式広報車を老朽のため廃車とする。
11月	1998年式防火広報車を購入し、消防本部に配備
11月	元分団長 新山藤吉氏 勲六等瑞宝章を受章する。
12月	消防本部通信指令室に、自動車電話及び携帯電話からの119番通報着信専用電話を設置
12月	元団長 中村信男氏 勲五等瑞宝章を受章する。
11年 1月	若木町北5丁目 佐藤秋太郎氏に一般市民消防協力者（消火協力）として消防長感謝状を贈呈する。
	4月 無線受令機10基購入し、職員に配備
	6月 全国消防長会北海道支部道央地区協議会警防・救急事務研究会を開催
	7月 北海道消防操法訓練大会に消防団選抜隊がポンプ車操法の部に参加
12年 1月	コンピューター2000年問題により、消防職員が医療機関の警戒に当たる。
2月	高規格救急車（トヨタハイメディック）を購入し、消防署に配備
2月	昭和62年消防科学総合センター「救急基金」より寄贈の1987年式救急車を老朽のため廃車とする。
	3月 高規格救急車（トヨタハイメディック）運用開始
	4月 第12代消防長 内田保氏 就任
	4月 赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正より、事務分掌の一部変更並びに消防署警防課救急救助係を消防署警防課救急係に名称変更する。
	7月 赤平市消防警防規程及び赤平市消防通信規程の全部改正
10月	元団長 孫崎稔氏 勲五等瑞宝章を受章する。
11月	第8代消防団長 鎌田恒彰氏 就任
13年 2月	元消防司令長 松本秀男氏 勲五等双光旭日章を受章する。
3月	赤平市少年消防クラブが全国少年消防クラブ運営指導協議会会長より表彰旗を受賞する。
4月	赤平市消防団機構改革により、団本部に分団長、部長を配置し、女性消防団員2名を

- 増員する。
- 7月 ハヤサカ自動車工業株式会社より、防火思想普及活動のためミニ消防車の寄贈を受け、消防署に配備。これに伴い代表取締役 早坂弘幸氏が赤平市長より善行表彰を受賞する。
- 9月 9月10日から13日まで集中豪雨による被害発生。被害戸数4戸、損害113,500千円
- 8月 消防本部通信指令室の改修工事を行う。
- 10月 平成5年7月より、(財)北海道健康づくり財団に委託していた家庭用緊急通報システムの受信業務を消防署通信指令室内に受信センターを設置し、運用開始
- 11月 消防団活性化事業として、消防ホース、携帯無線機、空気呼吸器、防火衣及び2001年式指揮広報車を購入する。
- 12月 昭和63年購入の1988年式無線指揮車を老朽のため廃車とする。
- 14年 2月 昭和62年日本損害保険協会より寄贈の1987年式消防ポンプ自動車を老朽化により廃車とする。
- 4月 第13代消防長 大坂惇氏 就任
- 4月 赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、消防署茂尻出張所消防一係及び消防二係を消防係に名称変更する。
- 4月 赤平市消防団機構改革により、団本部に副団長を配置する。
- 4月 赤平市危険物安全協会と燃焼機器整備業協会が合併し、赤平市危険物安全協会となる。
- 9月 赤平市消防創立80周年記念式典並びに記念演習挙行、記念誌発行
- 10月 消防団自立に伴い、赤平分団及び茂尻分団を業務移管する。
- 10月 幸町4丁目4番地にシルバーハウジングが新築され、消防署通信指令室内にシルバーハウジング緊急通報受信センターを設置し、運用開始
- 15年 3月 元消防監 高橋正治氏 正七位 勲五等瑞宝章を受章する。
- 4月 若木町東4丁目 戸澤寛氏に一般市民消防協力者（人命救助）として消防長感謝状を贈呈する。
- 7月 昭和54年購入の1979年式ポート・トレーを老朽のため廃車とする。
- 8月 昭和58年購入の1983年式消防用特殊作業車を老朽のため廃車とする。
- 9月 赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課に企画係を新設、消防署警防課に警防係、施設係を配置、消防署指令課に指令係、救急係を配置、消防署茂尻出張所消防係を廃止し、消防本部2課5係、消防署2課4係1出張所となる。
- 10月 消防団自立に伴い、平岸分団及び文京分団を業務移管する。
- 11月 消防団活性化総合整備事業によりサイレン遠隔吹鳴装置導入
- 11月 元消防司令長 樋郡勝司氏 瑞宝単光章を受章する。
- 12月 昭和54年購入の1979年式救助艇を老朽のため廃艇とする。
- 16年 3月 平岸分団詰所老朽により平岸新光町1丁目30番地4に新築し移転する。
- 4月 第14代消防長 小塚芳嗣氏 就任
- 4月 赤平市消防団長 鎌田恒彰氏 北海道消防協会空知地方支部中空知分会長 就任
- 4月 元消防司令長 田村敦實氏 瑞宝単光章を受章する。
- 7月 2004年式アキレス社製船外機付ゴムボートを購入し、消防署に配備
- 11月 元副団長 平瀬博氏 瑞宝単光章を受章する。
- 17年 2月 若木町西6丁目 菅原保治、錦町1丁目 村上馨の両氏に一般市民消防協力者（人命救助）として市長感謝状を贈呈する。
- 3月 消防署通信指令室内に、日本テレコム加入電話による119番通報受信装置を設置し、運用開始
- 4月 防災業務が市総務部総務課から消防本部へ移管
- 4月 赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課企画係を企画防災係、消防署指令課を指令救急課にそれぞれ名称変更し、消防署茂尻出張所を廃止する。
- 4月 赤平市危険物安全協会と赤平市防火管理者協会が合併し、赤平市防火安全協会となる。
- 4月 赤平幼稚園といすみ幼稚園の統合により、いすみ幼稚園幼年消防クラブが解散
- 4月 消防署通信指令室内にKDDI加入電話による119番通報受信装置を設置し、運用

		開始
	4月	元分団長 堺正雪氏 瑞宝単光章を受章する。
	6月	第51回北海道消防協会空知地方支部中空知分会連合演習挙行
	8月	消防署通信指令室内に、携帯電話からの119番直接受信装置を設置し、運用開始
	9月	消防署通信指令室内に、平成電電加入電話による119番通報受信装置を設置し、運用開始
	9月	消防本部庁舎裏救助工作車格納庫に赤平分団車格納庫を増設
	11月	元消防司令 島崎昭三氏 瑞宝単光章を受章する。
	11月	赤平市と株式会社FMなかそらちとで『災害時における災害広報活動の協力に関する協定書』締結
18年	2月	元副分団長 大田節氏 瑞宝単光章を受章する。
	3月	消防署通信指令室内に日の出団地シルバーハウジング、青葉団地シルバーハウジング緊急通報受信装置を設置し、運用開始
	4月	国民保護業務が市総務部総務課から消防本部へ移管
	4月	赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部総務課庶務係を総務係に名称変更、消防本部総務課企画防災係を廃止、消防本部防災課防災係を新設、消防署指令救急課及び消防署警防課施設係を廃止し、消防署警防課に指令係、救急係を配置、消防本部3課5係、消防署1課3係となる。
	4月	消防組織法に基づく緊急消防援助隊に消火隊として登録
	8月	赤平市と株式会社ニッショウマート赤平店、たきかわ農業協同組合とで『災害時における食糧等の供給に関する協定書』を締結
	11月	元消防司令長 阿部政利氏 瑞宝単光章を受章する。
	12月	赤平ライオンズクラブより創立45周年記念事業の一環として消防査察車（ホンダライフ4WD）の寄贈を受け、消防署に配備。これに伴い赤平ライオンズクラブ会長 植村正義氏が赤平市長より善行表彰を受賞する。
	12月	赤平市国民保護計画を策定
19年	4月	赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の全部改正により、事務分掌の一部変更並びに消防本部・署の課制を廃止し、消防本部6係体制とする。また、本部職員が消防署勤務を兼務する。
	4月	第15代消防長 中村高庸氏 就任
	4月	第9代消防団長 吉成茂明氏 就任
	4月	元消防司令長 木田勲氏 瑞宝単光章を受章する。
	6月	赤平市と赤平建設業協会とで『災害時における応急措置に関する協定書』を締結
	7月	元消防司令長 樋郡勝司氏 従七位を受章する。
	7月	赤平市消防本部の組織に関する規則及び赤平市消防署の組織に関する規程の一部改正により、事務分掌の一部改正並びに消防本部6係体制を廃止し、消防本部4係、消防署2係となる。
	8月	元消防司令長 岩淵兼夫氏 正七位を受章する。
	10月	赤平市地域防災計画の全部修正に伴う北海道知事協議終了
	11月	元副団長 米田務氏 瑞宝単光章を受章する。
	11月	2007年式小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ型を購入し、消防署に配備。 昭和59年購入の1984年式小型動力ポンプ付大型水槽車を老朽のため廃車とする。
	12月	赤平市水防計画の全部修正に伴う北海道知事協議終了
20年	2月	元消防司令 島崎昭三氏 従七位を受章する。
	6月	赤平市と北海道とで『災害時等における北海道及び市町村相互の応援に関する協定』を締結
	6月	赤平市と赤平市内郵便局とで『災害時における赤平市内郵便局と赤平市の協力に関する協定』を締結
	10月	特定小電力無線機（トランシーバー）5機購入し、1号車と指令車に配備
21年	3月	休日・夜間の当番病院が市立赤平総合病院のみとなったことから、急病テレホンセン

- ターを廃止とする。
- 4月 赤平市消防職員の勤務時間等に関する規程を一部改正し、休憩時間を廃止とする。
- 4月 赤平市消防本部の組織に関する規則の一部改正により、事務分掌の一部変更及び消防本部に総務課を配置し、総務係を総務課総務係、消防団係を総務課消防団係にそれぞれ名称変更し、1課4係となる。
- 4月 元消防司令 長町勝義氏 瑞宝単光章を受章する。
- 6月 全消防職員に新基準盛夏略衣を貸与
- 6月 特定小電力無線機（トランシーバー）5機購入し、1号車、2号車、3号車に配備
- 11月 高規格救急自動車（トヨタハイメディックⅢ）を購入し、消防署に配備
平成4年に北海道共済農業協同組合連合会より寄贈を受けた1992年式救急車2B型を老朽のため廃車とする。
- 12月 自動気象観測システムを購入し、消防署に配置
- 22年 1月 災害時職・団員召集メール（マ・メール）を導入
- 3月 水防法に基づき、人的被害を防ぐことを目的とした「洪水ハザードマップ」を作成し、市内全世帯、各企業団体、防災関係機関等に配布した。
- 4月 元消防監 久保田春夫氏 瑞宝双光章を受章する。
- 4月 元副団長 小林勝男氏 瑞宝単光章を受章する。
- 4月 地域の防災体制の充実強化を目的として、赤平市消防団協力事業所表示制度実施要綱を制定した。
- 5月 赤平市と北海道開発局とで『北海道地方における災害時の応援に関する申合せ』を締結
- 7月 赤平市と北海道エルピーガス災害対策協議会とで『災害等の発生時における赤平市と北海道エルピーガス災害対策協議会の応急・復旧活動の支援に関する協定』を締結
- 12月 2010年式消防ポンプ自動車CD-I型4WDを購入し、平岸分団に配備
平岸分団に配備していた平成元年購入の1989年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
- 23年 3月 北海道防災情報通信設備整備事業により全国瞬時警報システム（J-ALERT）を整備し、運用開始
- 3月 3月11日に発生した東日本大震災に伴い消防庁長官の指示により、第6次北海道緊急消防援助隊として、3名の職員を被災地へ派遣
- 4月 3月11日に発生した東日本大震災に伴い消防庁長官の指示により、第12次北海道緊急消防援助隊として、救助工作車及び5名の職員を被災地へ派遣
- 6月 赤平市と北海道コカ・コーラボトリング株式会社とで『災害対応型自動販売機による協働事業に関する協定』を締結
- 9月 2011年式消防ポンプ自動車CD-I型4WDを購入し、茂尻分団に配備
- 10月 茂尻分団に配備していた平成元年購入の1989年式消防ポンプ自動車を老朽のため廃車とする。
- 11月 元消防監 内田保氏 瑞宝双光章を受章する。
- 11月 元分団長 上野勲氏 瑞宝単光章を受章する。

歴 代 消 防 長



初代 消防長(S36. 5～S40. 3)
望 月 松 雄



二代 消防長(S40. 4～S52.10)
松 本 秀 男



三代 消防長(S52.11～S57. 6)
逢 坂 春 政



四代 消防長(S57. 7～S58. 9)
岩 淵 兼 夫



五代 消防長(S58.10～H 1. 3)
仁 田 力 夫
歴 代 消 防 長



六代 消防長(H 1. 4～H 3. 3)
東 幸 男



七代 消防長(H 3. 4～H 4. 3)
川 合 隆 安



八代 消防長(H 4. 4～H 6. 3)
小 野 武 志



九代 消防長(H 6. 4～H 7. 7)
林 久 貢



十代 消防長(H 7. 7～H10. 3)
高 橋 正 治



十一代 消防長(H10. 4～H12. 3)
久保田 春 夫



十二代 消防長(H12. 4～H14. 3)
内 田 保



十三代 消防長(H14. 4～H16. 3)
大 坂 惇



十四代 消防長(H16. 4～H19. 3)
小 塚 芳 嗣



十五代 消防長(H19. 4～)
中 村 高 庸

歴代消防組頭・警防団長・消防団長



初代 消防組頭(T11. 9～S 3. 5)
細 野 謙



二代 消防組頭(S 3. 9～S14. 3)
二代 警防団長(S19. 8～S20. 1)
森 川 利 吉



初代 警防団長(S14. 4～S19. 7)
河 崎 八 郎



三代 警防団長(S20. 2～S20. 8)
真 鍋 茂



四代 警防団長(S20. 9～S21. 9)
大 沼 徳 治



五代 警防団長(S21.10～S23. 2)
初代 消防団長(S23. 3～S36. 4)
望 月 松 雄



二代 消防団長(S36. 5～S38.12)
佐 々 木 金 太 郎



三代 消防団長(S39. 1～S54.12)
中 川 精 作



四代 消防団長(S55. 1～H 2. 3)
菊 島 節 男



五代 消防団長(H2. 4～H 6. 4)
田 中 太 郎



六代 消防団長(H 6. 4～H10. 4)
中 村 信 男



七代 消防団長(H10. 4～H12.10)
孫 崎 稔



八代 消防団長(H12. 11～H 19. 3)
鎌 田 恒 彰



九代 消防団長(H 19. 4～)
吉 成 茂 明

叙位・叙勲受章者名簿

受章年月日	階 級	氏 名	位 階 ・ 勲 等
昭和47年 7月19日	元消防司令長	望 月 松 雄	正七位 勲五等瑞宝章
昭和49年 4月29日	元 副 団 長	小 林 弘	勲六等单光旭日章
昭和50年 4月29日	元 班 長	小 倉 吉 蔵	勲七等瑞宝章
昭和51年 4月29日	元 分 団 長	午 角 伝 吉	勲七等瑞宝章
昭和53年 4月29日	元 分 団 長	安 原 信 治	勲七等青色桐葉章
昭和61年 4月29日	元 団 長	中 川 精 作	勲五等瑞宝章
平成 元年11月 3日	元消防司令長	岩 渕 兼 夫	勲五等瑞宝章
平成 2年 3月26日	元 団 長	菊 島 節 男	勲六等瑞宝章
平成 3年 9月 9日	元 消 防 監	仁 田 力 夫	從六位 勲五等瑞宝章
平成 3年11月 3日	元 副 分 団 長	橋 邊 富五郎	勲六等瑞宝章
平成 7年11月 3日	元 団 長	田 中 太 郎	勲五等瑞宝章
平成 9年11月 2日	元消防司令	島 畑 信 明	正七位 勲六等瑞宝章
平成10年11月 3日	元 分 団 長	新 山 藤 吉	勲六等瑞宝章
平成10年12月15日	元 団 長	中 村 信 男	勲五等瑞宝章
平成12年10月13日	元 団 長	孫 崎 稔	勲五等瑞宝章
平成13年 2月 8日	元消防司令長	松 本 秀 男	勲五等双光旭日章
平成15年 3月 2日	元 消 防 監	高 橋 正 治	正七位 勲五等瑞宝章
平成15年11月 4日	元消防司令長	樋 郡 勝 司	瑞宝单光章
平成16年 4月29日	元消防司令長	田 村 敦 實	瑞宝单光章
平成16年11月 3日	元 副 団 長	平 瀬 博	瑞宝单光章
平成17年 4月29日	元 分 団 長	堺 正 雪	瑞宝单光章
平成17年11月 3日	元消防司令	島 崎 昭 三	瑞宝单光章
平成18年 2月 1日	元 副 分 団 長	大 田 節	瑞宝单光章
平成18年11月 3日	元消防司令長	阿 部 政 利	瑞宝单光章
平成19年 4月29日	元消防司令長	木 田 勲	瑞宝单光章
平成19年 7月 1日	元消防司令長	樋 郡 勝 司	從七位
平成19年 8月23日	元消防司令長	岩 渕 兼 夫	正七位
平成19年11月 3日	元 副 団 長	米 田 務	瑞宝单光章
平成20年 2月 6日	元消防司令	島 崎 昭 三	從七位
平成21年 4月29日	元消防司令	長 町 勝 義	瑞宝单光章
平成22年 4月29日	元 消 防 監	久保田 春 夫	瑞宝双光章
平成22年 4月29日	元 副 団 長	小 林 勝 男	瑞宝单光章
平成23年11月 3日	元 消 防 監	内 田 保	瑞宝双光章
平成23年11月 3日	元 分 団 長	上 野 勲	瑞宝单光章

消 防 庁 長 官 表 彰 受 章 者 名 簿

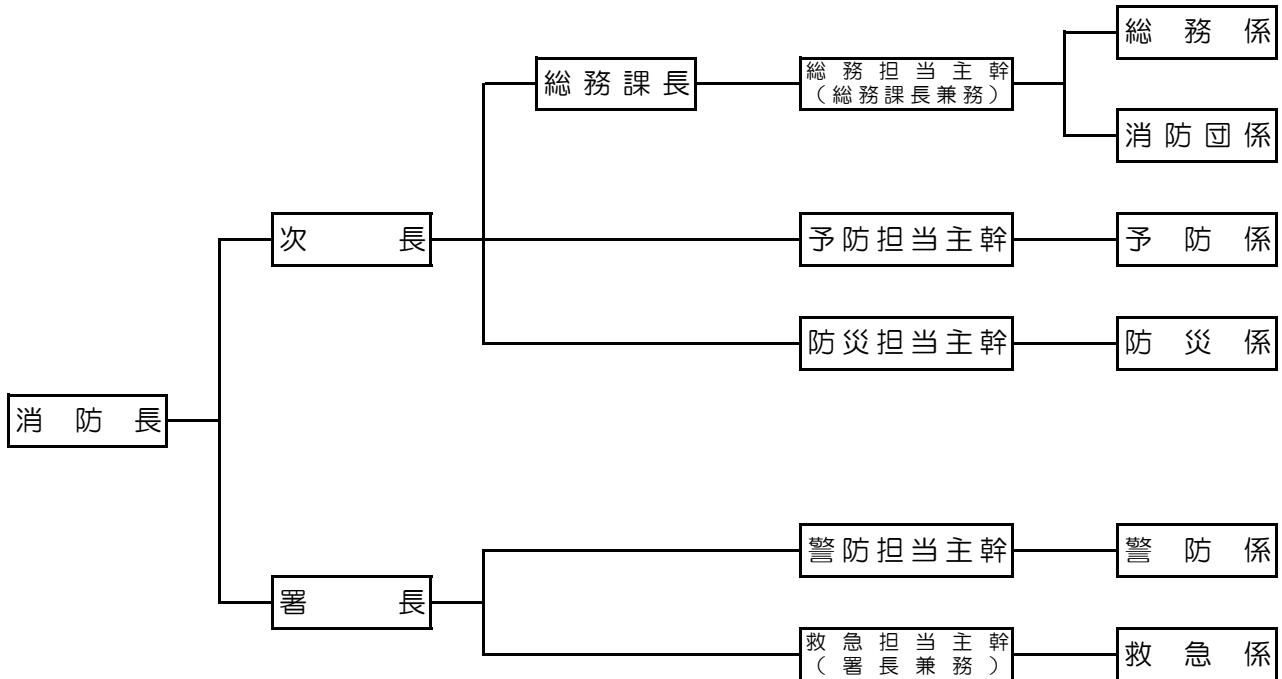
1. 功 労 章

受章年月日	階 級	氏 名
昭和49年 3月 1日	団 長	中 川 精 作
平成 2年 3月 8日	団 長	菊 島 節 男

2. 永年勤続功労章

受 章 年 月 日	階 級	氏 名	受 章 年 月 日	階 級	氏 名
昭和46年 3月 4日	班 長	大 田 節	平成10年 3月 7日	副 分 団 長	佐 藤 傳
昭和52年 3月 4日	分 団 長	酒 井 弥 吉	平成11年 3月 5日	消 防 監	久保田 春 夫
昭和58年 3月 2日	消防司令長	岩 渕 兼 夫	平成11年 3月 5日	分 団 長	上 野 勲
昭和60年 3月 6日	消防司令長	仁 田 力 夫	平成13年 3月 8日	消 防 監	内 田 保
昭和60年 3月 6日	副 団 長	田 中 太 郎	平成13年 3月 8日	団 長	鎌 田 恒 彰
昭和61年 3月 5日	副 団 長	中 村 信 男	平成14年 3月 6日	分 団 長	栗 林 貢
昭和62年 3月 4日	副 分 団 長	橋 邊 富五郎	平成15年 3月 5日	分 団 長	渥 美 茂 一
昭和63年 3月 9日	分 団 長	孫 崎 稔	平成16年 3月 4日	消 防 監	大 坂 惇
昭和63年 3月 9日	分 団 長	平 瀬 博	平成16年 3月 4日	分 団 長	吉 成 茂 明
昭和63年 3月 9日	副 分 団 長	堺 正 雪	平成17年 3月 4日	消 防 司 令	鈴 木 正 勝
平成 元年 3月 6日	副 分 団 長	新 山 藤 吉	平成18年 3月 3日	副 分 団 長	戸 田 嘉 喜
平成 2年 3月 8日	消防司令長	樋 郡 勝 司	平成19年 3月 2日	消防司令長	小 塚 芳 嗣
平成 7年 3月 3日	分 団 長	米 田 務	平成20年 3月 7日	分 団 長	鵜 飼 良 城
平成 8年 3月 6日	消 防 監	高 橋 正 治	平成21年 3月 6日	分 団 長	渡 邊 忠 司
平成 8年 3月 6日	分 団 長	小 林 勝 男	平成22年 3月 5日	分 団 長	中 村 隆 幸
平成 9年 3月 5日	消防司令長	田 村 敦 實	平成23年 3月 3日	消防司令長	中 村 高 庸
平成 9年 3月 5日	分 団 長	佐 藤 吉 春	平成24年 3月 8日	分 団 長	三 浦 日出男

消 防 本 部（署）組 織 図



消 防 職 員 階 級 別 配 置

（単位：人）

所 属			階 級 別	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
消 防 本 部	消 防 長		1	1						
	次 長		1		1					
	総 務 課	総 務 課 長	1		1					
		総 務 担 当 主 幹 （総務課長兼務）								
		総 務 係		5			1	4		
		消 防 団 係		3			1	2		
	予 防 担 当 主 幹		1		1					
	予 防 係		8			1	7			
	防 災 担 当 主 幹		1		1					
	防 災 係		3			1	2			
消 防 署	署 長		1		1					
	警 防 担 当 主 幹		1		1					
	警 防 係		7			1	5		1	
	救急担当主幹（署長兼務）									
	救 急 係		5			1	2		2	
合 計			38	1	6	6	22		3	

非常時の体制は別に組織する。

年 齢 区 分 別 階 級 別 消 防 職 員 数

(単位：人)

年 齢 区 分 \ 階 級	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
20歳未満							
20歳以上30歳未満	9				6		3
30歳以上40歳未満	22			6	16		
40歳以上50歳未満	3		3				
50歳以上	4	1	3				
合 計	38	1	6	6	22		3
平 均 年 齢	34.6歳						

消 防 職 員 階 級 別 勤 続 年 数

(単位：人)

年 齢 区 分 \ 階 級	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
10年未満	11				8		3
10年以上20年未満	18			4	14		
20年以上30年未満	5		3	2			
30年以上	4	1	3				
合 計	38	1	6	6	22		3

消 防 職 員 教 育 状 況

(単位：人)

派 遣 先	教 育 課 程 別		平成22 年度まで	平成23 年度派遣	合 計
北 海 道 消 防 学 校	初 任 教 育		37	1	38
	専 科 教 育	警 防 科	6		6
		無 線 通 信 課 程	2		2
		予 防 査 察 科	9	1	10
		危 険 物 科	6	1	7
		火 災 調 査 科	7	1	8
		救 急 課 程（Ⅰ 課 程）	2		2
		救 急Ⅱ 課 程	4		4
		救 急 科	22	1	23
	救 助 科	13	1	14	
	幹 部 教 育	幹 部 科		1	1
	特 別 教 育	消 防 ポンプ操法指導員課程	2		2
		気 管 挿 管 講 習	7		7
		薬 剤 投 与 講 習	4	1	5
気 管 挿 管 再 認 定 講 習	5	3	8		
救急救命九州研修所	薬 剤 投 与 追 加 講 習		1		1
北 海 道 市 町 村 職 員 研 修 セ ン タ ー	一 般 研 修	指 導 能 力 研 修	10	2	12
		地 方 自 治 法	5		5
	指 導 者 養 成 研 修	接 遇 研 修 指 導 者 養 成	1		1
		OJT 指 導 者 養 成 研 修	1		1
	専 門 研 修	法 令 実 務（基 礎）	2		2
	能 力 開 発 研 修	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 研 修	1		1
合	計		147	13	160

消防職員の特殊技能資格

(単位：人)

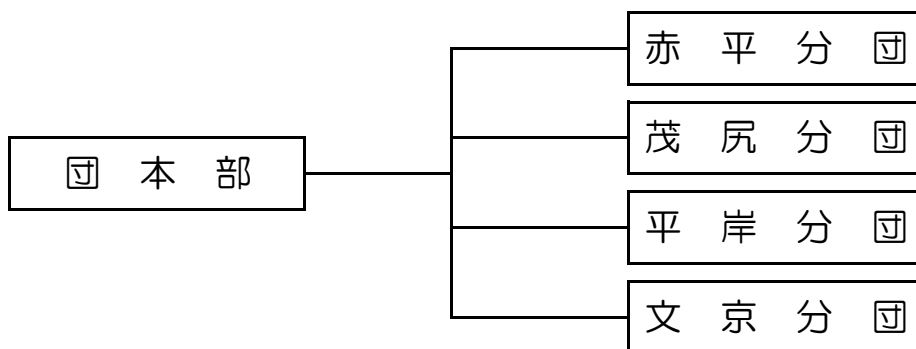
技能資格種別	階級別	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
普通自動車第一種運転免許		1	6	6	22		3	38
大型自動車第一種運転免許		1	6	6	21		2	36
大型自動車第二種運転免許					1			1
牽引自動車第一種免許			1					1
大型特殊自動車第一種運転免許			5	4	2			11
車両系建設機械技能講習修了者		1	5	1	1			8
小型移動式クレーン技能講習修了者			6	6	6			18
玉掛技能講習修了者			6	6	6			18
一級小型船舶操縦士			2					2
二級小型船舶操縦士			2	1	2			5
消防設備士乙種四類			1		1			2
消防設備士乙種六類			1	1	3			5
消防設備士乙種七類			1					1
危険物取扱者乙種一類					1			1
危険物取扱者乙種二類					1			1
危険物取扱者乙種三類					1			1
危険物取扱者乙種四類			2	3	6		1	12
危険物取扱者乙種五類					2			2
危険物取扱者乙種六類					2			2
危険物取扱者丙種				1				1
第二級陸上特殊無線技士			2		5			7
電話級アマチュア無線			1	1				2
二級ボイラー技士			2	1	1			4
酸素欠乏危険作業主任者			1					1
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者			1					1
ガス溶接技能講習修了者			1		1			2
衛生推進者		1		1				2
特定化学物質等作業主任者			1					1
防 災 士				2				2
予防技術資格者	防火査察専門員		4	3	5			12
	消防用設備等専門員		3	2	5			10
	危険物専門員		3	3	4			10

救急隊員資格内訳

(単位：人)

資格種別	階級別	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
救 急	救 命 士			1	7			8
	気 管 挿 管 認 定			1	7			8
	薬 剤 投 与 認 定			1	4			5
救急隊員135時間講習修了者			2					2
救急隊員250時間講習修了者		1	4	5	15		2	27
応 急 手 当 指 導 員		1	3	1	8			13

消 防 団 組 織 図



消 防 団 員 階 級 別 配 置

(単位：人)

分 団 別 \ 階 級	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員
団 本 部	16 (12)	1	2	1		1 (1)	2 (2)	9 (9)
赤 平 分 団	23			1	1	2	6	13
茂 尻 分 団	24			1	1	2	6	14
平 岸 分 団	15			1	1	2	4	7
文 京 分 団	20			1	1	2	5	11
合 計	98 (12)	1	2	5	4	9 (1)	23 (2)	54 (9)

※ 括弧内数字は女性消防団員うち数

年 齢 区 分 別 階 級 別 消 防 団 員 数

(単位：人)

分 団 別 \ 年 齢	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員
20歳未満								
20歳以上30歳未満	4							4
30歳以上40歳未満	22						3	19
40歳以上50歳未満	33					2	11	20
50歳以上60歳未満	20			2	2	2	7	7
60歳以上	19	1	2	3	2	5	2	4
合 計	98	1	2	5	4	9	23	54
平 均 年 齢	46.6歳		男性消防団員平均年齢				46.3歳	
			女性消防団員平均年齢				48.5歳	

消 防 団 員 階 級 別 勤 続 年 数

(単位：人)

階 級 年齢区分	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
10年未満	43						5	38
10年以上20年未満	28					3	11	14
20年以上30年未満	12		1	1	2	2	5	1
30年以上	15	1	1	4	2	4	2	1
合 計	98	1	2	5	4	9	23	54

過 去 5 年 間 の 分 団 別 出 動 率

(1月～12月) (単位：%)

階 級 年齢区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平 均
団 本 部	87.6	85.8	83.3	81.0	76.9	82.9
赤 平 分 団	66.4	66.9	62.9	66.9	67.8	66.2
茂 尻 分 団	66.9	65.8	71.5	70.8	80.8	71.2
平 岸 分 団	83.3	73.6	77.1	78.4	72.8	77.0
文 京 分 団	77.0	76.1	76.3	83.4	74.6	77.5
平 均	76.2	73.6	74.2	76.1	74.6	75.0

消 防 団 員 職 業 形 態 別 団 員 数

(平成24年4月1日現在) (単位：人)

	職 業 構 成				就 業 形 態			
	公 務 員			その他				その他
業態	国家 公務員	地方 公務員	特殊法人 等公務員 に準ずる 職員		被用者	自営業者	家族 従事者	
人員		1	4	93	73	16	7	2

一般会計と消防費（当初予算）の比較

（単位：千円）

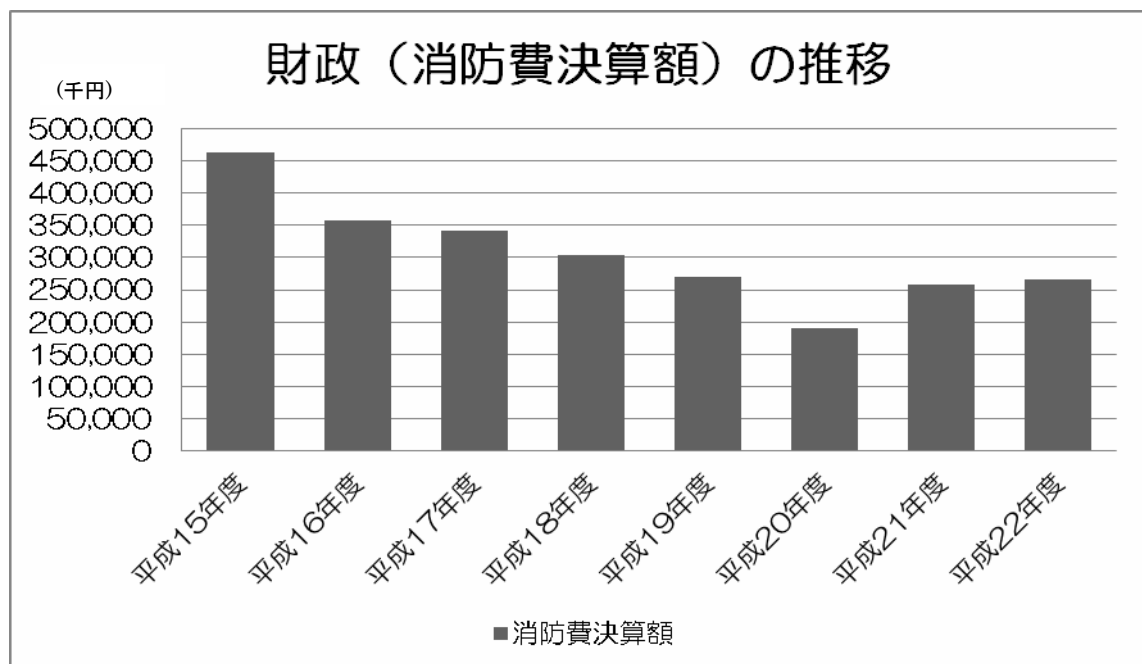
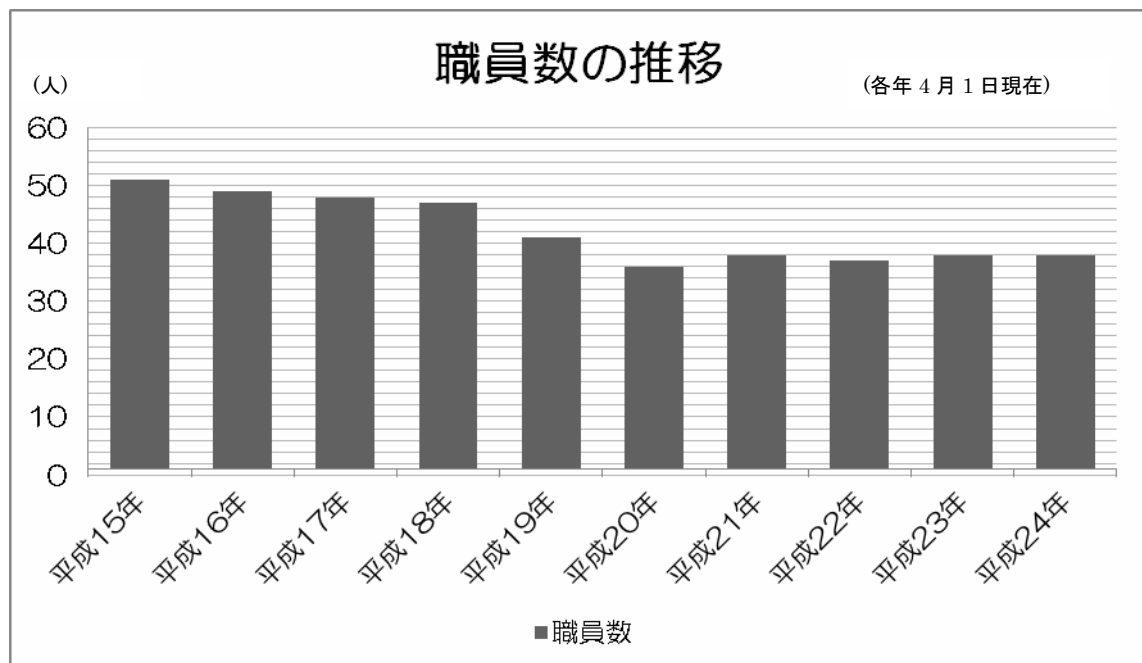
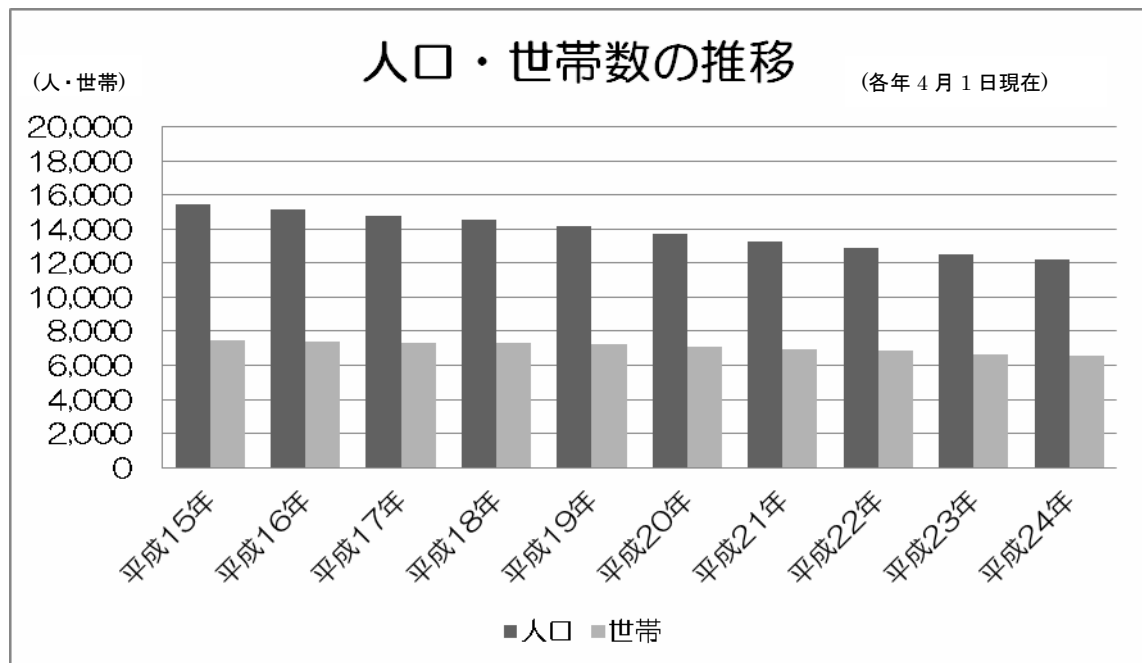
年 度 区 分		平成 2 2 年 度	平成 2 3 年 度	平成 2 4 年 度
一般会計（A）		8,713,713	8,320,562	8,136,799
消 防 費	常 備 消 防 費	19,899	20,741	19,884
	非 常 備 消 防 費	14,388	14,444	14,465
	消 防 施 設 費	27,129	27,534	80,047
	防 災 費	1,927	1,782	6,302
	職 員 給 与 費	223,726	239,608	245,103
	計（B）	287,069	304,109	365,801
比 率 B / A × 1 0 0		3.29%	3.65%	4.50%

消防費の人口・世帯別状況

年 度 区 分		平成 2 2 年 度	平成 2 3 年 度	平成 2 4 年 度
消 防 費		287,069千円	304,109千円	365,801千円
市民 1 人あたりの消防費		22,293 円	24,313 円	29,900 円
一世帯あたりの消防費		41,945 円	44,566 円	55,458 円

消防現有力の人口・世帯・面積別状況

区 分	人 口 12,234 人	世 帯 6,596 世帯	面 積 129.88 km ²
職員一人あたり（38名）	321.94	173.57	3.41
団員一人あたり（98名）	124.83	67.30	1.32
消防車1台あたり（7台）	1,747.71	942.28	18.55



消防庁舎の概要



赤平市消防本部・署 団本部 赤平分団

所在地	：赤平市大町1-5	構造	：鉄筋コンクリート2階建
電話	：0125-32-3181	敷地面積	：1,261.52㎡
FAX	：0125-32-3103	建物延面積	：927.63㎡
竣工年月	：昭和36年6月	備考	：昭和44年 6月 一部増改築 ：昭和52年10月 一部増改築



茂尻分団詰所

所在地	：赤平市茂尻中央町北1-3	構造	：鉄筋コンクリート2階建
電話	：	敷地面積	：1,317.98㎡
竣工年月	：昭和43年6月	建物延面積	：450.24㎡
		備考	：



平岸分団詰所

所在地：赤平市平岸新光町1-30
電話：
竣工年月：平成16年3月

構造：鉄骨造平屋
敷地面積：1,210.55㎡
建物延面積：136.08㎡
備考：

※完成予定図



文京分団詰所

所在地：赤平市西文京町4-2
電話：
竣工年月：平成24年11月予定

構造：鉄骨造平屋
敷地面積：420.78㎡
建物延面積：148.50㎡
備考：



消防機械器具倉庫

所 在 地	：赤平市西文京町4-2	建 物 延 面 積	：93.23㎡
構 造	：コンクリートブロック2階建	備 考	：文京分団詰所同一敷地内
竣 工 年 月	：昭和57年8月		



救助工作車・赤平分団車格納庫

所 在 地	：赤平市大町3-5	敷 地 面 積	：299.40㎡
構 造	：鉄骨造各波カラー鉄板平屋	建 物 延 面 積	：95.00㎡
竣 工 年 月	：平成9年12月	備 考	：消防本部裏専用駐車場敷地内に建設 ：平成17年9月赤平分団車格納庫増築

通 信 施 設 の 状 況

施 設 等			計	合計
無 線 電 話（局）	基 地 局（3 波）		1	1
	固 定 局		5	5
	移 動 局	車 載 用	13	27
		携 帯 用	14	
受 令 機（台）			38	38
専 用 回 線（回 線）	119番 通報専用	N T T	3	7
		I P 電 話 ※	2	
		携 帯 電 話 ※	2	
	携帯電話119番通報近隣市町転送用 ※		1	1
	火 災 案 内 専 用		2	2
	自 動 通 報 用		3	3
	関 係 機 関 連 絡 用		1	1
	緊急通報用 家庭用（64世帯） シルバーハウジング（132世帯）		1	1
救 急 車 積 載 携 帯 電 話（台）			2	2
一 般 回 線（回 線）	一 般 加 入 回 線	本 部 ・ 署 ※	2	5
		分 団 詰 所	3	
F A X 回 線			2	2
サイレン吹鳴 装置（式）	サイレン吹鳴装置（制御装置）		1	1
	サイレン吹鳴子局装置		4	4
北 海 道 総 合 行 政 情 報 ネットワーク（回 線）			1	1

※はI SDN回線

消 防 水 利 の 状 況

(単位:基)

水利種別	区 分		規 格	公 設	私 設	合 計
防火水槽	容 量	40 m ³ 以上	91	1	92	
		40 m ³ 未満	25	1	26	
	小 計		116	2	118	
地上式消火栓	管 径	200mm	7		7	
		150mm	15		15	
		100mm				
	小 計		22		22	
合 計			138	2	140	

消 防 車 両 現 勢

区分 所属	車両別（型式）	メ-カ-名	登録番号	総排気量	年式 （西暦）	水槽容量 （薬液量）	呼 称
		型式番号		ポンプ級別			
消防本部 （消防団）	指揮広報車	トヨタ TA-JZS173W	札幌830 ほ 119	2.49	2001		指令車
	広報車	三 菱 R-CD2VLRM	札幌800 た 143	1.46	1998		広報車
消防署	化学車（Ⅱ型）4WD	三 菱 U-FL417FZ改	札幌 88 た1233	7.54 A-2	1990	1.3m ³ (0.5 m ³)	1号車
	小型動力ポンプ付 水槽車（Ⅱ型）	日 野 BDG-FQ1ERYA改	札幌800 は2493	12.91 B-2	2007	9m ³	2号車
	水槽付消防ポンプ 自動車（Ⅱ型）4WD	日 野 KC-FT1JGBL改	札幌 88 た3361	7.96 A-1	1996	2m ³	3号車
	救助工作車（Ⅱ型） 4WD	日 野 KC-FT1JHBA改	札幌 88 た3962	7.96	1998		救工車
	高規格救急自動車 4WD	トヨタ CBF-TRH226S	札幌800 せ9485	2.69	2009		救急1号車
	高規格救急自動車 4WD	トヨタ GE-VCH38S-QFSRK-H	札幌800 さ5089	3.37	1999		救急2号車
	搬送車 4WD	トヨタ S-CM60	札幌400 そ5645	1.97	1991		搬送車
	消防査察車	ホンダ CBA-JB6	札幌580 く6655	0.65	2006		査察車
赤平分団	消防ポンプ自動車 （CDⅡ型）4WD	三 菱 U-FL417E改	札幌 88 て6081	7.54 A-2	1992		赤平車
茂尻分団	消防ポンプ自動車 （CDⅠ型）4WD	いすゞ BDG-NMS85AN	札幌 800 そ1752	2.99 A-2	2011		茂尻車
平岸分団	消防ポンプ自動車 （CDⅠ型）4WD	いすゞ BDG-NMS85AN	札幌 800 そ 995	2.99 A-2	2010		平岸車
文京分団	消防ポンプ自動車 （CDⅡ型）低床式4WD	日 野 KC-FX1JGBA改	札幌 88 と2071	7.96 A-2	1996		文京車

現 有 消 防 車



指令車

所 属：消防本部（消防団）
配 備：平成13年10月31日



広報車

所 属：消防本部
配 備：平成10年9月24日



1号車

所 属：消防署
配 備：平成2年11月26日



2号車

所 属：消防署
配 備：平成19年11月12日



3号車

所 属：消防署
配 備：平成8年9月9日



救工車

所 属：消防署
配 備：平成10年3月24日



救急1号車

所 属：消防署
配 備：平成21年11月11日



救急2号車

所 属：消防署
配 備：平成12年3月1日



査察車

所 属：消防署
配 備：平成18年12月7日



搬送車

所 属：消防署
配 備：平成13年7月6日



赤平車

所 属：赤平分団
配 備：平成4年12月21日



茂尻車

所 属：茂尻分団
配 備：平成23年9月16日



平岸車

所 属：平岸分団
配 備：平成22年12月14日



文京車

所 属：文京分団
配 備：平成8年3月7日

主 な 消 防 資 機 材 等 保 有 状 況

	器 具 名	数量	器 具 名	数量
一般救助・水難救助用器具	かぎ付はしご	1	救命索発射銃	1
	二連はしご	9	サバイバースリング	1
	三連はしご	3	平担架	1
	ワイヤーはしご	1	カラビナ	42
	空気式救助マット	1	滑車	5
	救命胴衣	13	バスケットストレッチャー	1
	救命浮環	4	救命ボート	2
重量物排除用器具	油圧ジャッキ	1	マンホール救助器具	1
	油圧プレッター	1	マット型空気ジャッキ	1
	可搬ウィンチ	1	チェーンブロック	1
	ワイヤーロープ	19	牽引用スリング	1
測定用器具	可燃性ガス測定器	1	自動火災警報機感知器テスト用具	1
	有毒ガス測定器	1	煙感知器試験器	1
	酸素濃度測定器	1	炭化深度計	1
	張力計	1		
破壊・切断用器具	万能斧	2	削岩機	1
	ハンマー	3	ハンマドリル	1
	携帯用コンクリート破壊器具	1	空気鋸	1
	油圧切断機	1	チェーンソー	1
	エンジンカッター	2	鉄線カッター	5
	ガス溶断機	1		
消火・照明器具	消防用ホース（使用圧16kg）	319	水管保護器	7
	消防用ホース（使用圧13kg）	9	組立水槽	1
	消防用ホース（濡れホース）	17	山火用背負式消火器	10
	訓練用ホース	41	発電機	9
	ゼロトルクターボノズル	2	投光器	9
	ガンタイプノズル	3	携帯投光器	17
	Vフォームガン	1	第3種粉末	87.6kg
	軽量アルミ管そう	2	合成界面活性剤	1kl
	ポンププロポーションナー	1	クラスA消火薬剤	80ℓ

		器 具 名	数量	器 具 名	数量
呼吸保護・隊員保護用器具		空気呼吸器	20	防塵マスク	5
		予備ボンベ	24	送排風機	1
		要救助者呼吸器具	6	耐電長靴	3
		耐電手袋	8	防塵メガネ	5
		耐電衣	3	携帯警報器	8
		耐電ズボン	3	防毒マスク	3
その他器具		携帯拡声器	4	ロープ登降機	2
		緩降機	1	トランシーバー	10
救急関係器具	救急1号車積載	患者監視装置	1	メインストレッチャー	1
		パルスオキシメータ	1	サブストレッチャー	1
		喉頭鏡セット	1	スクープストレッチャー	1
		血圧計	1	ターポリン担架	1
		バックマスク（各種）	3	エアーストレッチャー	1
		自動体外式除細動器	1	全脊柱固定器具セット	1
		自動吸引器	1	救助用工具セット	1
		人工呼吸器	1	パルスCOオキシメータ	1
	救急2号車積載	患者監視装置	1	メインストレッチャー	1
		パルスオキシメータ	1	サブストレッチャー	1
		喉頭鏡セット	1	スクープストレッチャー	1
		血圧計	1	ターポリン担架	1
		バックマスク（各種）	3	エアーストレッチャー	1
		自動体外式除細動器	1	全脊柱固定器具セット	1
		自動吸引器	1	救助用工具セット	1
	その他（共用・予備・訓練用）	パルスオキシメータ	1	車載用酸素ボンベ	6
		喉頭鏡セット	1	携帯用酸素ボンベ	4
		血圧計	1	自動心マッサージ器	1
		バックマスク	1	分娩セット	1
		スクープストレッチャー	1	救急訓練用人形（成人）	6
		全脊柱固定器具セット	1	救急訓練用人形（小児・乳幼児）	5
		小児用全脊柱固定器具セット	1	救急訓練用AED	2

防 火 管 理 者 の 選 任 及 び 消 防 計 画 届 出 状 況

法施行令別表第1の区分			選任義務 対象物数 (A)	選 任 済 対象物数 (B)	消防計画 届 出 数 (C)	選 任 率 (B/A)	届 出 率 (C/A)
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場					
	ロ	公会堂、集会場	41	41	41	100.0%	100.0%
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等					
	ロ	遊技場、ダンスホール	1	1	1	100.0%	100.0%
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗					
	ニ	カラオケボックス等					
3	イ	待合、料理店等					
	ロ	飲食店	10	9	9	90.0%	90.0%
4		百貨店、マーケット、販売店舗等	15	13	13	86.7%	86.7%
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所					
	ロ	寄宿舍、下宿、共同住宅	18	16	6	88.9%	33.3%
6	イ	病院、診療所、助産院	3	3	3	100.0%	100.0%
	ロ	老人短期入所施設、重症心身障害児施設等	12	12	12	100.0%	100.0%
	ハ	老人デイサービス、児童養護施設等	6	6	6	100.0%	100.0%
	ニ	幼稚園、特別支援学校	1	1	1	100.0%	100.0%
7		小学校、中学校、各種学校等	7	7	7	100.0%	100.0%
8		図書館、博物館、美術館等	1	1	1	100.0%	100.0%
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場等	1	1	1	100.0%	100.0%
	ロ	9イ以外の公衆浴場	2	2	2	100.0%	100.0%
10		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場					
11		神社、寺院、教会等	14	13	11	92.9%	78.6%
12	イ	工場、作業場	7	7	7	100.0%	100.0%
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ					
13	イ	自動車車庫、駐車場					
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫					
14		倉庫					
15		前各号に該当しない事業場	15	15	15	100.0%	100.0%
16	イ	特定複合用途防火対象物	16	16	15	100.0%	93.8%
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	4	4	4	100.0%	100.0%
合 計			174	168	155	96.6%	89.1%

月別各種届出状況

届出別 / 月別			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
消防関係	危険物製造所等	設置許可申請			1				1						2
		変更許可申請				2	1				2		1		6
		完成検査前検査申請													
		完成検査申請				2	2		2		1		1		8
		仮使用承認申請				1									1
		品名、数量又は指定数量の倍数変更届出				1	1								2
		廃止届出			1	2	1			2					6
	法	譲渡引渡届出												1	1
		予防規程制定・変更認可申請													
		危険物保安監督者選任・解任届出	1	2		1	1	1							6
関係	防火管理関係	圧縮アセチレンガス等の貯蔵又は取扱いの開始(廃止)届出											3		3
		完成検査済証再交付申請		1			1								2
		防火管理者選任・解任届出	8	3	7	2	1	2	4		1		2	3	33
		消防計画書作成変更届出	2	3	2		1	2	2				1	1	14
		消防用設備等着工届出				1			1	2	1		1		6
		消防用設備等設置届出		2	2		1		3	1	1	1	4	2	17
		消防用設備等点検結果届出	10	13	22	6	4	14	22	5	50	20	2	17	185
		防火対象物点検報告特例認定申請													
	赤平市	危険物仮貯蔵、仮取扱承認申請													
		危険物製造所等設置取り止め届出													
		危険物製造所等軽微な変更等届出				4	1				1				6
関係	条例	火気使用工事届出													
		危険物製造所等の設置者等の住所等変更届出		1		1	2				1			3	8
		危険物製造所等使用休止・再開届出				1									1
		液体燃料を使用する燃焼機器の分解掃除及び整備業等届出													
		水圧・水張検査申請													
		裸火使用申請													
		防火対象物使用等開始届出			1		1		1		2	1			6
	規則	火を使用する設備等設置届出			2										2
		変・発・蓄電池設備等設置届出				1						1			2
		ネオン管灯設備等設置届出													
関係	規則	消防訓練実施計画報告	11	13	17	11	7	16	19	10	3	1	6	2	116
		消防訓練実施結果報告	8	13	16	12	5	7	29	13	4	1	4	3	115
		火災と紛らわしい煙の届出													
	関係	煙火打ち上げ届出													
		催物開催届出												1	1
		道路工事届出													
		消防設備業届出													
関係	関係	煙突取付・掃除業等届出													
		少量危険物等貯蔵取扱届出					3		1	3		1			8
		少量危険物等貯蔵取扱廃止届出													
		水素ガスを充てんする気球の設置等届出													

用途及び工事別建築同意事務処理状況

用途別／工事別		合 計	新 築	増 改 築 等
1	イ 劇場、映画館、演芸場、観覧場	()	()	()
	ロ 公会堂、集会場	()	()	()
2	イ キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	()	()	()
	ロ 遊技場、ダンスホール	()	()	()
	ハ 性風俗関連特殊営業店舗	()	()	()
	ニ カラオケボックス等	()	()	()
3	イ 待合、料理店等	()	()	()
	ロ 飲食店	()	()	()
4	百貨店、マーケット、販売店舗等	()	()	()
5	イ 旅館、ホテル、宿泊所	()	()	()
	ロ 寄宿舍、下宿、共同住宅	2 ()	2 ()	()
6	イ 病院、診療所、助産院	()	()	()
	ロ 老人短期入所施設、重症心身障害児施設等	()	()	()
	ハ 老人デイサービス、児童養護施設等	2 ()	2 ()	()
	ニ 幼稚園、特別支援学校	()	()	()
7	小学校、中学校、各種学校等	()	()	()
8	図書館、博物館、美術館等	()	()	()
9	イ 公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場等	()	()	()
	ロ 9イ以外の公衆浴場	()	()	()
10	車両の停車場、船舶若しくは航空機の発着場	()	()	()
11	神社、寺院、教会等	1 ()	()	1 ()
12	イ 工場、作業場	()	()	()
	ロ 映画スタジオ、テレビスタジオ	()	()	()
13	イ 自動車車庫、駐車場	()	()	()
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫	()	()	()
14	倉庫	4 ()	4 ()	()
15	前各号に該当しない事業場	1 ()	1 ()	()
16	イ 特定複合用途防火対象物	()	()	()
	ロ イ以外の複合用途防火対象物	()	()	()
—	専用住宅	(9)	(8)	(1)
—	住宅用車庫・物置	2 (1)	2 ()	(1)
—	その他	()	()	()
合 計		12 (10)	11 (8)	1 (2)

() 内数字は、建築通知事務処理件数

危険物施設の現況

施設別／区分		施 設 数	事務処理の状況			
			設 置 許 可 申 請 数	変 更 許 可 申 請 数	完 成 検 査	廃 止 届
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	4	1		1	
	屋外タンク貯蔵所	3				
	屋内タンク貯蔵所	6				1
	地下タンク貯蔵所	44				2
	移動タンク貯蔵所	23	1	1	2	2
	屋外貯蔵所	1				
	小計	81				
給 取 扱 所	給油取扱所	14		2	2	1
	自家用	6				
	一般取扱所	37		3	3	
	小口詰替専用	1				
小 計	小計	51				
	合 計	132				

危険物施設の許可数量

区 分		施設数	第 4 類								合 計
			第 1 石 油 類		第 2 石 油 類		第 3 石 油 類		第 4 石 油 類		
			数量(ℓ)	倍 数	数量(ℓ)	倍 数	数量(ℓ)	倍 数	数量(ℓ)	倍 数	
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	4	19,370	96.85	5,290	5.29	22,885	11.44	1,080	0.18	113.76
	屋外タンク貯蔵所	3					39,500	19.75			19.75
	屋内タンク貯蔵所	6			12,100	12.10	16,600	8.30			20.40
	地下タンク貯蔵所	44			1,255,900	1,255.90	710,600	355.30			1,611.20
	移動タンク貯蔵所	23			70,900	70.90	7,400	3.70			74.60
	屋 外 貯 蔵 所	1			20,000	20.00					20.00
	小 計	81	19,370	96.85	1,364,190	1,364.19	796,985	398.49	1,080	0.18	1,859.71
取 扱 所	給 油 取 扱 所 (営 業)	8	169,800	849.00	165,376	165.38	2,000	1.00			1,015.38
	給 油 取 扱 所 (自 家 給)	6	3,000	15.00	114,700	114.70	10,000	5.00			134.70
	計	14	172,800	864.00	280,076	280.08	12,000	6.00			1,150.08
	一 般 取 扱 所	36	1,800	9.00	307,884	307.88	136,769	68.38			385.26
	小 口 詰 替 専 用	1			10,000	10.00					10.00
	計	37	1,800	9.00	317,884	317.88	136,769	68.38			395.26
	小 計	51	174,600	873.00	597,960	597.96	148,769	74.38			1,545.34
合 計		132	193,970	969.85	1,962,150	1,962.15	945,754	472.87	1,080	0.18	3,405.05

防火・広報活動月別実施状況

月 別 種 別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	
	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
通 報 訓 練																										
避 難 訓 練	10	218	15	500	16	717	11	500	3	105	7	264	31	707	11	558	4	51			4	110	1	119	113	3,849
消 火 訓 練																										
防 火 教 室	1	14	1	61							1	13	1	35	1	15					1	15			6	153
防 火 映 画																										
防 火 広 報	14	30											21	78			2	2							37	110
消 防 施 設 見 学																										
防火管理者講習																										
予防・危険物研修会							1	2					3	6											4	8
救 急 講 習 会																										

防 火 協 力 団 体

1 赤平市幼少年婦人防火委員会

設 立 平成 7 年 9 月 7 日
事 務 局 消防本部予防係
目 的 幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブの健全な育成発展に寄与する。

(1) 赤平市少年消防クラブ

設 立 昭和 39 年 6 月 3 日
クラブ員数 25 名
事 務 局 消防本部予防係
目 的 少年に対して明朗活発な気風を育成し、併せて火災予防の普及徹底及び一般的防火思想の向上を図り、少年の教育に寄与する。



(2) 赤平幼稚園幼年消防クラブ

設 立 平成 7 年 9 月 1 日
クラブ員数 75 名
事 務 局 消防本部予防係
目 的 幼年に消防研修を行い、火に対する正しいしつけを身につけさせ、幼稚園及び各家庭からの火災の減少を図ると共に、将来人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地を育成する。



(3) 赤平婦人防火クラブ

設 立 平成 7 年 6 月 5 日
クラブ員数 30 名
事 務 局 消防本部予防係
目 的 家庭における火災予防の普及徹底並びに防火思想の向上を図り、併せて社会福祉の増進に寄与する。

2 赤平市防火安全協会

設立 平成 17 年 4 月 1 日
会員数 159事業所
事務局 消防本部予防係
目的 会員相互の連絡協調を図ると共に、防火対象物及び危険物施設並びに燃焼機器に起因する災害防止に努め、もって会員の健全な振興発展と社会公共の福祉の増進に寄与する。



3 消防後援会

設立 昭和21年 赤平分団後援会
昭和23年 茂尻分団後援会
昭和25年 平岸連合町内会防災部
昭和42年 文京分団後援会
目的 災害発生や訓練警戒に生業を顧みず出動し、地域住民の生命と財産の保護に当たる消防団員に対し、敬意と感謝を込めて団員の慰労と士気の高揚に努め、更には、関係地域の火災予防思想の普及啓発に寄与する。

4 赤平消防鳶の会

設立 昭和63年10月
目的 赤平市内に居住する元消防職員及び団員で組織し、消防行政の推進と地域の防災活動に寄与する。

火 災 の 概 要

(1月～12月)

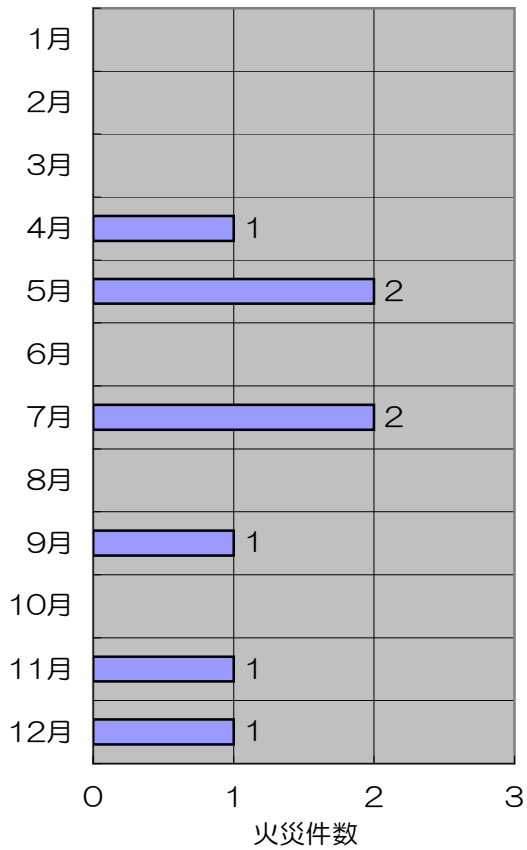
区 分		単 位	平成23年(A)	平成22年(B)	増減(A - B)
火 災 件 数		件	8	8	
	建 物		7	5	2
	林 野				
	車 両			1	△ 1
	そ の 他		1	2	△ 1
焼 損 棟 数		棟	9	5	4
	全 焼		3	1	2
	半 焼		3		3
	部 分 焼		1	1	
	ば や		2	3	△ 1
建 物 焼 損 床 面 積		m ²	422	25	397
建 物 焼 損 表 面 積		m ²			
林 野 焼 損 面 積		a			
焼 損 車 両 台 数		台		1	
死 者		人			
負 傷 者		人	2		2
罹 災 世 帯 数		世 帯	7	2	5
	全 損		1		1
	半 損		1		1
	小 損		5	2	3
罹 災 人 員		人	15	2	13
損 害 額		千 円	62,006	2,550	59,456
	建 物		61,844	2,158	59,686
	林 野				
	車 両			392	△ 392
	そ の 他		162		162

平成23年火災記録

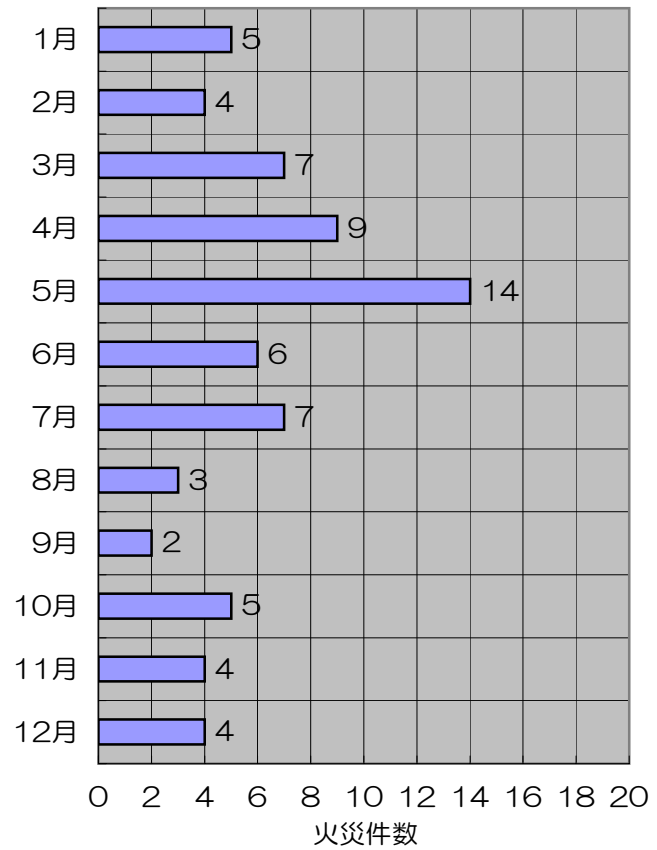
火災 番号	出火時刻	覚知 方法	火災種別	罹災世帯数				罹災人員	死傷者数		焼 損 棟 数					焼損面積			焼 損 車 両 台 数	損 害 額 (千円)						
				全 損	半 損	小 損	合 計		死 者	負 傷 者	全 焼	半 焼	部 分 焼	ほ や	合 計	建物床 ㎡	建物表 ㎡	林野 a		建 物		林 野	車 両	そ の 他	合 計	
																				建築物	収容物					
1	15:26	119	建物		1	2	3	8		1		1			1	202					8,158	37,541				45,699
2	14:20	119 (携帯)	建物									1			1	90					1,698	24				1,722
3	6:03	119	建物	1			1	1			1	1			2	95					13,185	365				13,550
4	23:00	119 (携帯)	建物								2				2	7					17					17
5	時分不明	119	その他																					162	162	
6	12:28	119	建物			1	1	4					1		1	28					369	442				811
7	時分不明	119 (携帯)	建物			1	1	1		1				1	1						5	12				17
8	時分不明	事後聞知	建物			1	1	1						1	1						28					28
合 計				1	1	5	7	15		2	3	3	1	2	9	422					23,460	38,384			162	62,006

月別及び曜日別火災件数

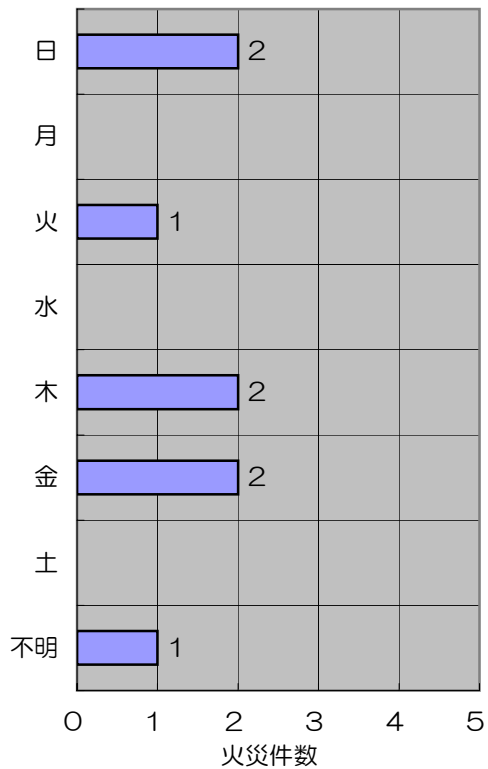
平成23年 月別火災件数



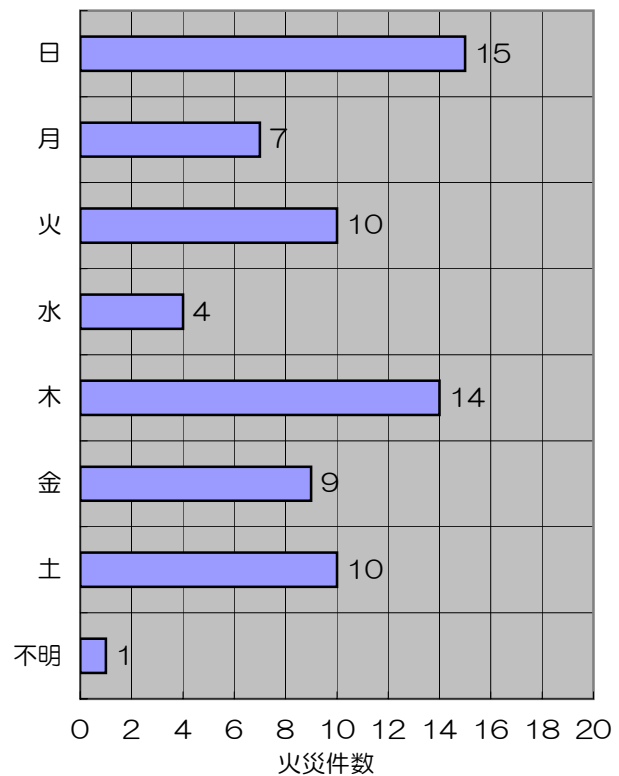
過去10年間 月別火災件数



平成23年 曜日別火災件数

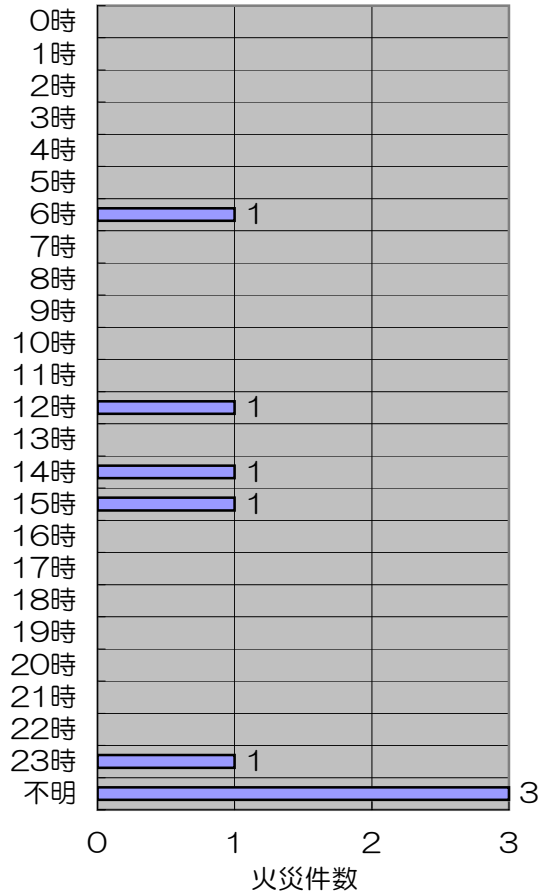


過去10年間 曜日別火災件数

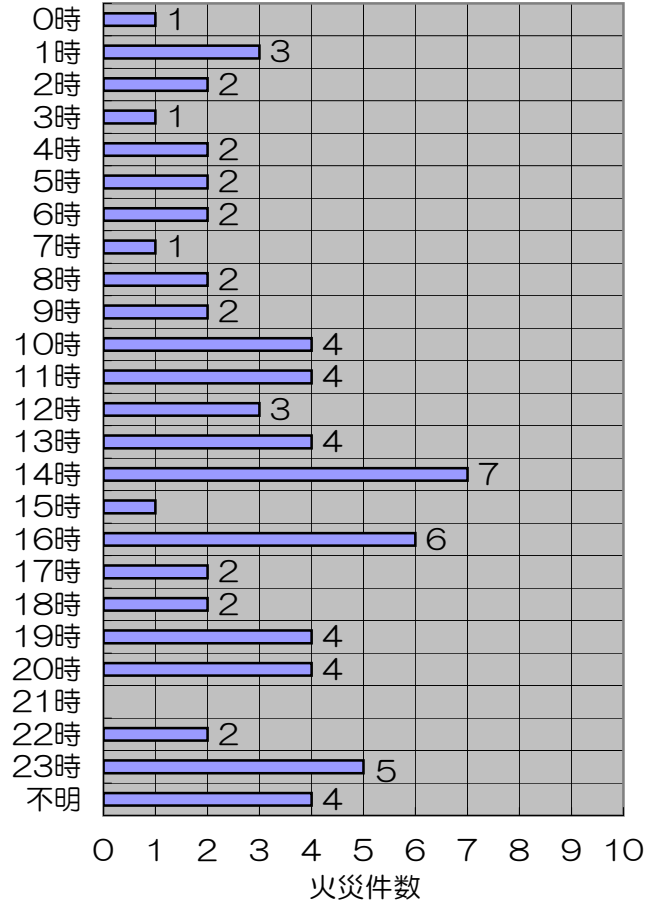


時間別及び季節別火災件数

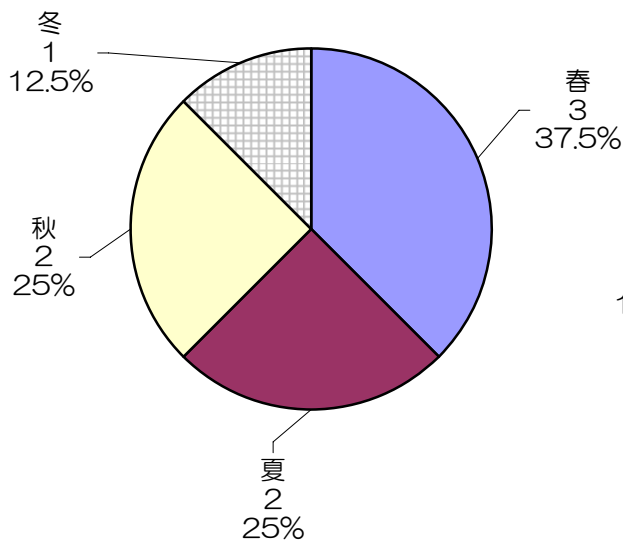
平成23年 時間別火災件数



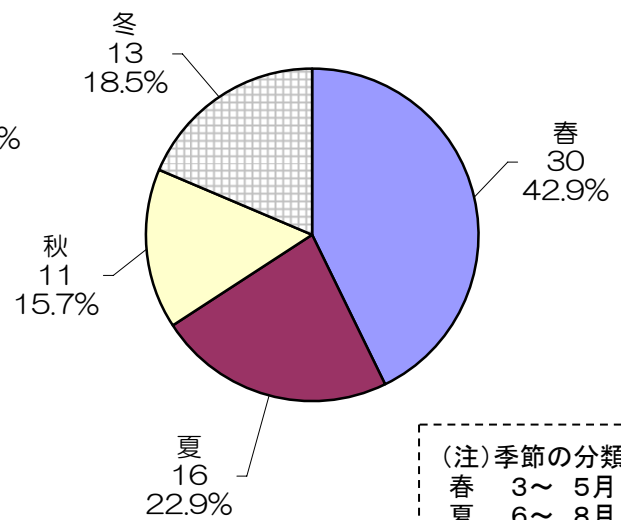
過去10年間 時間別火災件数



平成23年 季節別火災件数



過去10年間 季節別火災件数



(注) 季節の分類
 春 3～5月
 夏 6～8月
 秋 9～11月
 冬 12～2月

過去１０年間出火原因別火災件数

年別 原因別	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	合 計
たばこ		1	2					1			4
ストーブ						1	1		1	1	4
こんろ	1										1
火遊び				1					1	2	4
火入れ・たき火								2	1		3
放火の疑い			1						1		2
放 火				1			2	2	1	2	8
煙突・煙道	1	1	2				1				5
風呂釜	2		1								3
マッチ・ライター											
取灰（すす含）			1								1
電灯・電話等の配線	2	1				1				1	5
電気機器											
ガスの漏洩											
線香・ローソク									1		1
漏 電			1								1
自動車構造不良											
鍋のかけ忘れ		2									2
飛び火											
ガスバーナー						1			1		2
そ の 他	1			2	1	2	1	2	1	1	11
不明・調査中		1	1	4	1	3	1	1		1	13
合 計	7	6	9	8	2	8	6	8	8	8	70

過去１０年間の火災状況

区分 年	出火件数					焼損棟数					罹災		死傷者数		焼損面積			損害額（千円）			
	建物	林野	車両	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	世帯数	人員	死者	負傷者	建物床 ㎡	建物表 ㎡	林野 a	建築物	収容物	林車両 その他	合計
平成14年	5		2		7	1	1	3	1	6	6	13			149	6		8,133	3,552	123	11,808
平成15年	4		1	1	6	2			2	4	4	8		3	159			14,481	1,296	905	16,682
平成16年	9				9	5		2	3	10	7	16	1	1	659			60,986	14,120		75,106
平成17年	5		2	1	8	3		1	1	5	4	12	2	3	303			4,113	2,372	544	7,029
平成18年	2				2	1		1		2	2	4			90	2		4,111	2,138		6,249
平成19年	8				8	4		2	3	9	4	4		1	466	2		17,927	1,025		18,952
平成20年	4		1	1	6	4		1	2	7	3	4		1	606	1		12,451	223	732	13,406
平成21年	2		2	4	8	2	1			3	1	2			102			1,184	373	267	1,824
平成22年	5		1	2	8	1		1	3	5	2	2			25			619	1,539	392	2,550
平成23年	7			1	8	3	3	1	2	9	7	15		2	422			23,460	38,384	162	62,006
合計	51		9	10	70	26	5	12	17	60	40	80	3	11	2,981	11		147,465	65,022	3,125	215,612

過去の主な火災

発生年	発生場所	業 態	死 者	負傷者	罹災人員	焼損面積(㎡)	損害額(千円)	発生原因
昭和38年	赤平・住友地区	飲食店	2	2	22	247	10,000	石油ストーブ
〃	茂尻・平岸地区	共同住宅			116	1,662	16,141	煙突からの飛び火
〃	赤平・住友地区	共同住宅		2	307	4,899	36,309	煙突からの飛び火
〃	赤平・住友地区	遊技場	3		17	307	2,258	不明
昭和40年	赤平・住友地区	共同住宅		1	43	601	12,013	火遊び
〃	茂尻・平岸地区	共同住宅		2	46	745	10,233	ガソリンの引火
〃	赤平・住友地区	共同住宅	1		27	337	6,402	ストーブの過熱
昭和41年	赤平・住友地区	工場	1	2			800	石炭の自然発火
〃	文京・幌岡地区	公共施設		1		819	16,570	放火の疑い
〃	赤平・住友地区	工場		1		2,074	51,533	不明
昭和42年	赤平・住友地区	共同住宅	2		27	337	4,141	たばこの不始末
昭和44年	赤平・住友地区	共同住宅			43	1,240	18,240	不明
昭和45年	茂尻・平岸地区	工場		1		1,435	16,844	不明
昭和57年	文京・幌岡地区	住宅	1		1	31	1,092	石油ストーブ
昭和58年	赤平・住友地区	住宅	1		1	46	3,343	石油ストーブ
〃	文京・幌岡地区	遊技場		2		943	27,774	サンダーの火花
〃	赤平・住友地区	共同住宅	1		4	41	2,918	子供の火遊び
昭和59年	赤平・住友地区	衣料品店		1	12	461	57,163	不明
〃	茂尻・平岸地区	工場				108	8,907	薬品の混触
昭和60年	茂尻・平岸地区	その他	1				0	放火
昭和61年	赤平・住友地区	共同住宅		1		378	29,728	放火
〃	赤平・住友地区	共同住宅		2	3	1戸全壊	推定 3,500	LPG放出
〃	文京・幌岡地区	その他	1				6	放火
昭和62年	文京・幌岡地区	工場				572	62,549	不明
〃	赤平・住友地区	共同住宅		5	17	5戸破損 42	4,075	LPG放出
平成1年	赤平・住友地区	工場				132	30,298	不明
平成2年	文京・幌岡地区	納屋				126	2,091	落雷
平成3年	赤平・住友地区	工場		2		347	13,922	漏洩したアセトンに引火
平成4年	茂尻・平岸地区	その他	1	1	1	130	5,102	放火
平成5年	赤平・住友地区	工場				2,344	903,844	繊維製品の自然発火
〃	赤平・住友地区	倉庫	1		4	172	21,807	たばこの不始末
平成6年	文京・幌岡地区	倉庫				1,130	9,304	不明
平成7年	文京・幌岡地区	工場		1		529	522,341	不明
平成8年	赤平・住友地区	住宅	1		1	55	3,287	不明
平成9年	赤平・住友地区	住宅	1	1	6	40	4,330	たばこの不始末
平成16年	赤平・住友地区	飲食店				192	49,640	煙突・煙道
〃	文京・幌岡地区	共同住宅	1		1	46	7,694	たばこの不始末
平成17年	文京・幌岡地区	共同住宅	1	1	6	60	1,000	不明
〃	茂尻・平岸地区	その他	1					不明
平成23年	赤平・住友地区	婦人服小売業		1	8	202	45,699	ストーブ

(死者1名、負傷者5名、罹災人員30名、焼損面積1,000㎡、損害額3,000万円以上、その他特異な原因によるものを登載)

出 動 状 況

(1月～12月)

区 分 出動種別		件 数	出 動 人 員			出 動 台 数			放 水 車 両	放 水 量 m ³	ホ ー ス 本 数	使 用 水 利 数
			消 防 職 員	消 防 団 員	計	消 防 本 部 署	消 防 団	計				
火災	建 物	5	117	131	248	33	8	41	12	250.6	145	10
	車 両											
	林 野											
	その他	2	37	22	59	10	1	11	2	10.0	12	
風 水 害		4	42		42	14		14				
救 助 活 動		3	28		28	9		9				
応 援		2	8		8	2		2				
捜 索		3	16		16	6		6				
警 戒		6	15		15	10		10				
調 査		34	61		61	37		37				
そ の 他		48	176		176	68		68	3	7.3	8	
合 計		107	500	153	653	189	9	198	17	267.9	165	10

月 別 出 動 状 況

(単位：件)

月 別 出動種別		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
火災	建 物				1	2				1		1		5
	車 両													
	林 野													
	その他							2						2
風 水 害						2			1	1				4
救 助 活 動			1	1								1		3
応 援									1	1				2
捜 索					1		2							3
警 戒						1		1	4					6
調 査			2		3	6	5	2			6	5	5	34
そ の 他		1	2	3	6	2	7	3	7	2	2	6	7	48
合 計		1	5	4	11	13	14	8	13	5	8	13	12	107

過 去 5 年 間 の 出 動 状 況

(1月～12月)

項 目 別	年 別	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平 均
出 動 件 数		136	101	87	107	107	107.60
出 動 台 数		216	181	143	190	189	183.80
出 動 人 員	職 員	839	647	387	574	500	589.40
	団 員	111	92	64	41	153	92.20
出 動 件 数	日 平 均	0.37	0.28	0.24	0.29	0.29	0.29
	月 平 均	11.33	8.42	7.25	8.92	8.92	8.97
月 平 均	出 動 台 数	18.00	15.08	11.92	15.83	15.75	15.32
	出 動 人 員	79.17	61.58	37.58	51.25	54.41	56.80

事故種別発生場所別救助出動状況

(1月～12月)

事故種別 発生場所			火 建	災 建 物 以 外	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害 事 故	機 械 事 故 災 害	建 物 事 故 災 害	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	爆 発 ・ 破 裂 事 故	そ の 他	合 計
			物	外	故	故	故	害	害	故	故	他	計
屋内	住居		1									1	2
	その他の屋内												
屋外	道路	高速自動車道											
		その他の道路											
	水面	内水面											
		外水面											
	山岳												
	その他の屋外				1								1
地下													
その他													
要救助者数			1		3							1	5
出動人員			9		12							7	28
出動件数			1		1							1	3

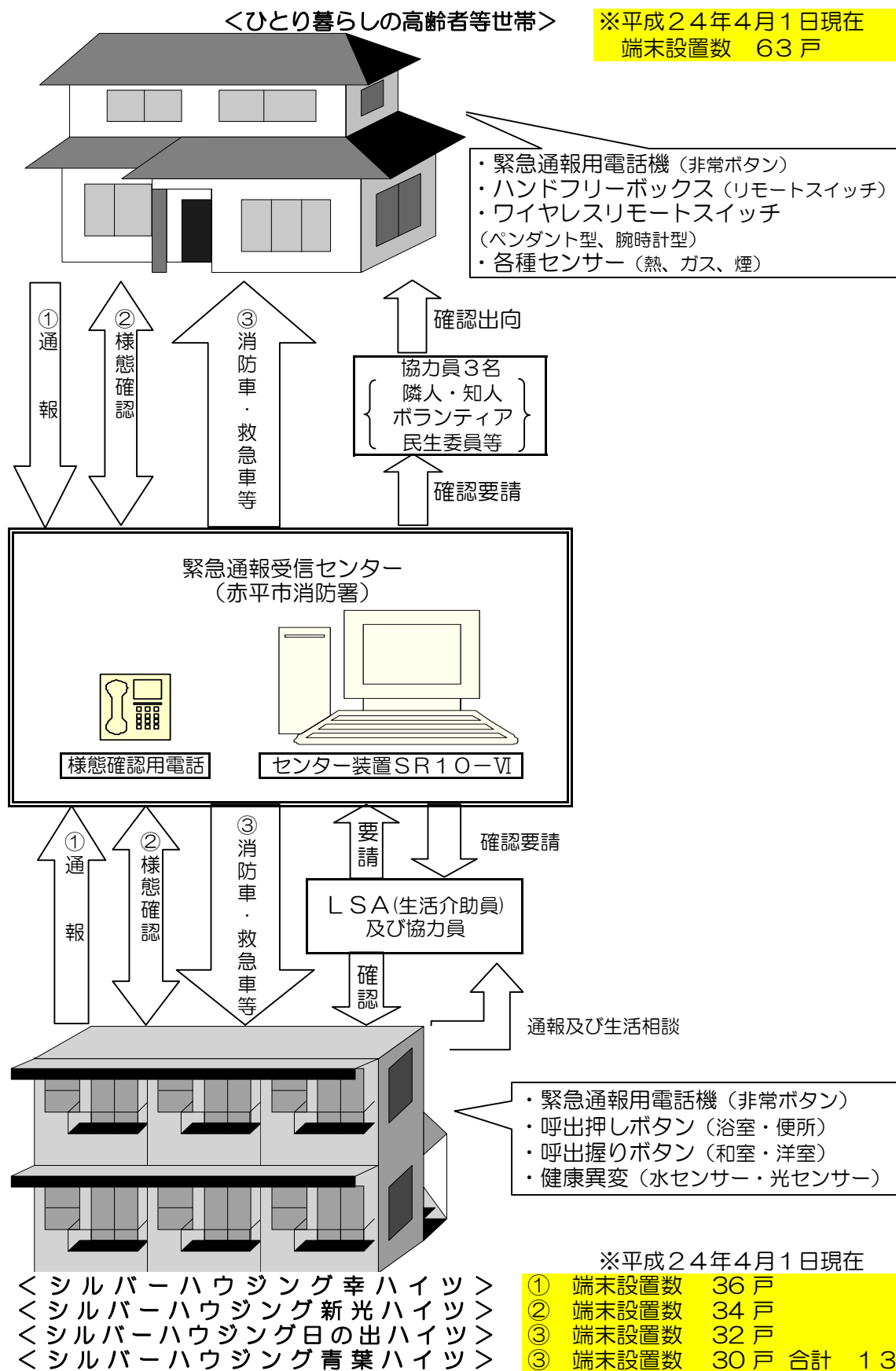
事故種別月別救助出動件数

(1月～12月)

事故種別 月別		火 建	災 建 物 以 外	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害 事 故	機 械 事 故 災 害	建 物 事 故 災 害	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	爆 発 ・ 破 裂 事 故	そ の 他	要 救 助 者 数	出 動 人 員	出 動 件 数
		物	外	故	故	故	害	害	害	害	他	数	員	数
1月														
2月											1	1	7	1
3月				1								3	12	1
4月														
5月														
6月														
7月														
8月														
9月														
10月														
11月		1										1	9	1
12月														
合 計		1		1							1	5	28	3

赤平市家庭用緊急通報システム及びシルバーハウジング緊急通報概要図

- ①平成5年7月1日（財）北海道健康づくり財団へ受信業務を委託し、運用を開始。
- ②平成13年10月1日受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始。



- ①平成14年10月1日受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始。
- ②平成15年10月1日受信センターを赤平市消防署内に設置し、運用を開始。
- ③平成18年3月受信センターを消防署内に設置し、運用を開始。

家庭用緊急通報システム受信状況

(1月～12月)

種 別 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
非 常 ボ タ ン	1	2	2	3	1	4		1	1	1	3		19
ワ イ ヤ レ ス		1	1	3			1	1				1	8
リ モ ー ト			2		1				1	1	2	1	8
熱 セ ン サ ー				1									1
煙 セ ン サ ー	1	1	1	1	2			1	2				9
ガ ス セ ン サ ー				1	1	4	3	2	6	4	1		22
そ の 他	1		1	3	1					2	1		9
合 計	3	4	7	12	6	8	4	5	10	8	7	2	76

家庭用緊急通報システム出動状況

(1月～12月)

区 分 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火 災 出 動													
救 急 出 動			1	1	1	1				1	2		7
そ の 他 出 動			1	1	1			1	1		2	1	8
合 計			2	2	2	1		1	1	1	4	1	15

シルバーハウジング緊急通報受信状況

(1月～12月)

種 別 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
非 常 ボ タ ン 類	2	1	2	1	1	1	2	3	1	4		2	20
ワ イ ヤ レ ス		2	1	1			1	2	3	3	1		14
熱 セ ン サ ー										1			1
水 セ ン サ ー	2	1	2	2	2	1	4	5	3	6	5	3	36
光 セ ン サ ー		1		7	4	5	11	2	2	1		1	34
そ の 他			1										1
合 計	4	5	6	11	7	7	18	12	9	15	6	6	106

シルバーハウジング緊急通報出動状況

(1月～12月)

区 分 \ 月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火 災 出 動													
救 急 出 動				2	1	1	1			2	1	1	8
そ の 他 出 動		1			1		1			2			5
合 計		1		2	2	1	2			4	1	1	13

事故種別月別救急出場件数

(1月～12月)

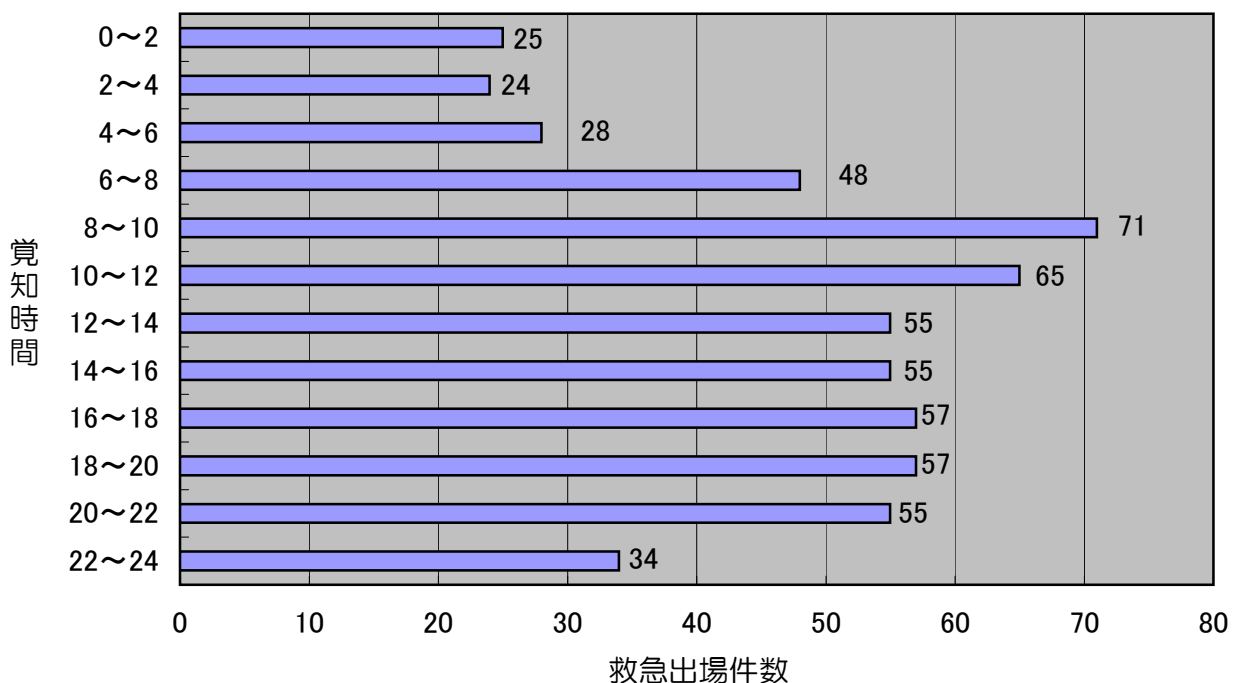
区分 月別	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				出 場 件 数	搬 送 人 員 数	不 搬 送 件 数
											転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 材 搬 送	そ の 他			
1月					1		6		1	39	1			1	49	47	2
2月							5		1	34	4			1	45	43	2
3月				3	1		5			40	5			1	55	54	2
4月	1						3			30	3			4	41	36	5
5月				1			8	1		32	12			3	57	52	5
6月				3			7	1	2	25	6			1	45	43	2
7月				2			2			28	3			2	37	35	2
8月				4			8	4	2	32	5			2	57	55	2
9月					1		6			31	2				40	40	
10月				1			4			32	5				42	41	1
11月	1			3	1		8			31	3			1	48	51	1
12月				3	2		6	2	2	30	12			1	58	58	1
合計	2			20	6		68	8	8	384	61			17	574	555	25

管外搬送出場件数

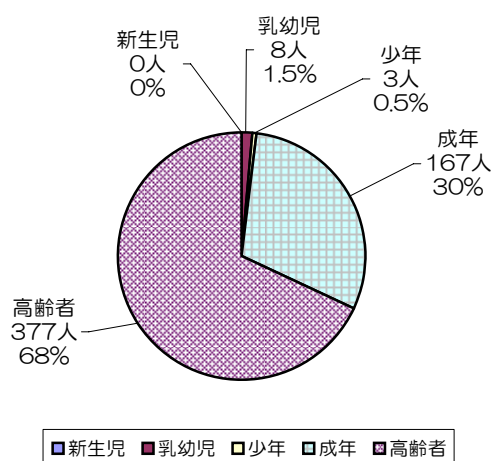
(1月～12月)

病院所在地		転院搬送	転送	直接管外搬送	合 計
1	滝川市	23	3	26	52
2	砂川市	36	4	19	59
3	芦別市			1	1
4	その他	1			1
合 計		60	7	46	113

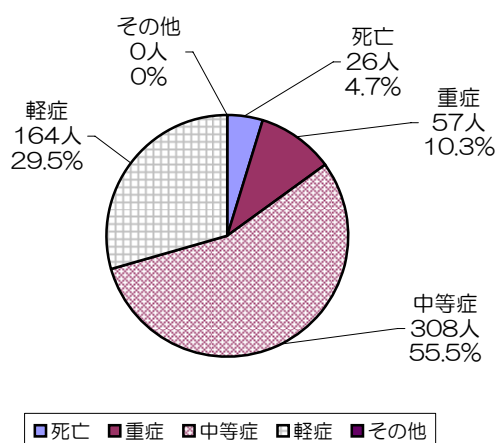
時間別救急出場件数



年齢区分別搬送人員数



傷病程度別搬送人員数



(注) 年齢区分の分類

新生児：生後29日未満
乳幼児：生後29日以上満7歳未満
少年：満7歳以上満18歳未満
成年：満18歳以上満65歳未満
高齢者：満65歳以上

(注) 傷病程度の分類

死亡：初診時において死亡が確認
重症：3週間以上入院加療を要するもの
中等症：重症又は軽症以外
軽症：入院加療を必要としないもの
その他：医師の診断がない又は搬送先がその他の場所へ搬送したもの

過去10年間の救急出場件数

(1月～12月)

区分 年別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				出場件数	搬送人員数	不搬送件数
											転院搬送	医師搬送	資材搬送	その他			
14年				32	7	9	71	1	15	395	50	2	1	22	605	585	24
15年	2			34	6		68	7	8	381	58	1		21	586	568	25
16年	2	1		26	10	2	78	6	10	424	61	1		27	648	628	34
17年	1		1	23	6		81	3	16	398	63			30	622	593	41
18年			1	26	8	1	77	1	19	404	76			38	651	613	44
19年				16	8	1	79	2	13	409	69			26	623	581	44
20年	2			23	2	3	80	2	24	364	50			28	578	529	52
21年				20	5	4	70	4	13	339	54			36	545	503	45
22年				25	6	1	86	2	10	365	60	1		27	583	548	43
23年	2			20	6		68	8	8	384	61			17	574	555	25

過去10年間の気象参考記録

年 別 種 別	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
最 多 風 向	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	東北東	南東	南東
最 大 風 速	8.6	9.0	9.0	14.0	8.3	8.2	7.6	7.0	9.0	8.4
平 均 風 速	1.6	1.8	1.9	1.7	1.8	1.8	1.7	2.2	2.0	1.9
最 高 気 温 ℃	31	31	33	32	34	36	33	33	34.3	33.4
最 低 気 温 ℃	-20	-23	-19	-20	-18	-16	-22	-16	-16.4	-17.9
平 均 気 温 ℃	7.3	7.0	7.7	6.9	7.4	7.9	7.8	7.7	8.0	7.4
最 大 湿 度 %	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
最 小 湿 度 %	19	18	23	29	19	24	27	17	19	17
平 均 湿 度 %	84	83	83	85	85	83	84	71	81	84
最小実効湿度%	59	66	66	60.0	65	68	64	65	60	67
降 雨 量 mm	598.0	581.0	664.0	627.0	789.0	731.5	607.5	829.0	1,059.0	1,212.0
降 水 量 mm	929.5	742.5	1,114.5	1,042.5	1,221.5	901.0	734.5	1,162.0	1,307.0	1,524.0
降 雪 量 cm	892.5	575.0	1,121.0	1,357.0	1,524.0	1,244.0	1,078.0	1,051.0	1,149.0	1,496.0

※ 降雪観測は1時間毎の観測。ただし、平成16年のみ6時間毎の観測。

平成23年各別気象参記録

(24時間記録)

種 別		月 別												合 計 (平 均)	最 高 最 低
天 候 (午前9時)	晴(快晴含む)	9	13	17	11	14	11	20	21	11	16	9	10	162	21
	曇	10	9	11	10	13	19	7	8	13	7	11	9	127	19
	雨			1	6	4		4	2	6	8	4		35	8
	雪	12	6	2	3							6	12	41	12
風 向 ・ 風 速	最 多 風 向	南 東	南 東	南 東	南 東	北 西	西北西	北 西	南 東	南 東	南 東	南 東	南 東		南 東
	最大瞬間風速	12.3	13.3	15.5	17.3	19.6	11.6	12	12.9	15.1	15.9	16.5	18.9		19.6
	最大瞬間風向	南 東	南 東	南 東	南 東	北 西	南 東	南 東	南 東	南 東	南 東	南 東	南 東		北 西
	最 大 風 速	5.2	6.5	7.1	6.2	8.4	5.1	5.3	6.2	5.4	5	6.1	6.6		8.4
	平 均 風 速	1.8	2	2	2.3	2.3	1.7	1.7	1.6	1.8	2	1.9	2	1.9	
気 温	最 高 気 温	1.7	9.8	10.5	18.8	25.2	29.4	33	33.4	31.6	21.9	17.4	2.8		33.4
	最 低 気 温	-17.9	-15.6	-12.2	-8.4	-0.9	4	11.6	13.7	7.3	-4.1	-8.9	-15.5		-17.9
	平 均 気 温	-7.1	-4.2	-1.6	5.2	10.5	16.7	21.5	22.1	17.5	9.6	3	-4.8	7.4	
	真冬日日数	28	9	4								2	20	63	
	真夏日日数							7	12	2				21	
湿 度	最小実効湿度	75	77	67	67	70	73	78	77	84	77	86	82		67
	最 小 湿 度	48	43	29	23	17	34	31	39	36	38	39	52		17
	平 均 湿 度	86	82	78	75	79	84	86	85	88	87	91	90	84.3	
気 圧	平 均 気 圧	1002	1009	1004	1003	1004	1001	1002	1004	1006	1009	1010	1007	1004.9	
降 雪	降 雪 量	387	145	213	62							250	438	1496	
	降 雪 日 数	26	16	19	3							12	28	104	
積 雪	最 大 積 雪	68	62	68	14							49	77		77
降 雨	降 雨 量			1.5	135.5	119	68.5	162.5	174.5	329	161.5	53	7	1212	
	降 雨 日 数			2	13	18	13	14	14	19	16	9	2	120	
降 水	水 量	47.5	38	41	148.5	119	68.5	162.5	174.5	329	161.5	126.5	107.5	1524	

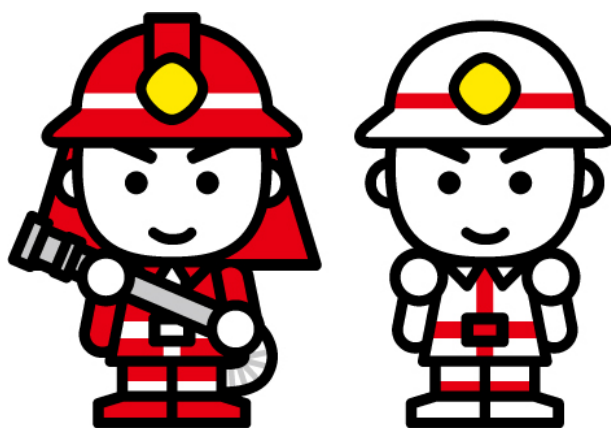
冬期間における降雪量

平成22年10月～平成23年4月

項 目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合 計
降 雪 量	5	102	102	387	145	213	62	1,016 cm

「消すまでは
出ない行かない
離れない」

平成24年度「全国統一防火標語」



消太

全国消防イメージキャラクター「消太」は、より一層「親しまれる消防」をめざして、消防防災に係るさまざまな広報活動に使用することを目的に自治体消防制度60周年を記念して作成した、消防共通のイメージキャラクターです。